

異世界TS

王子を助けただけなのに

●
蛸壺屋

トランス編

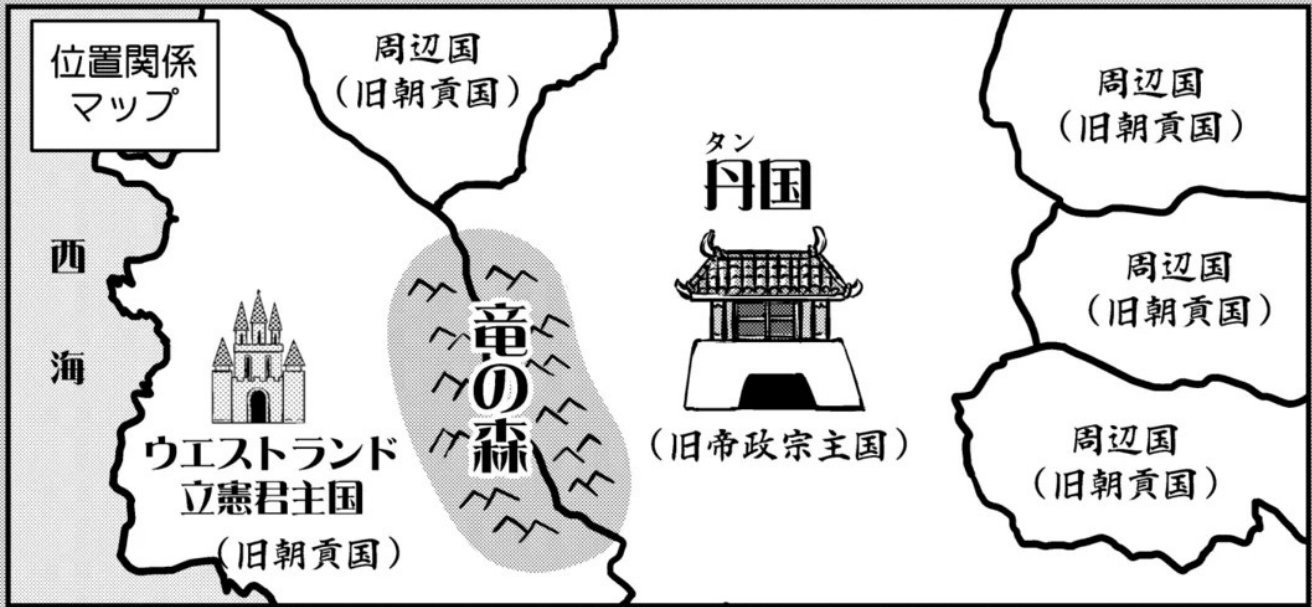


異世界TS 王子を助けただけなのに トランス編

異世界TS
王子を助けただけなのに トランス編



TAKOTUBOYA



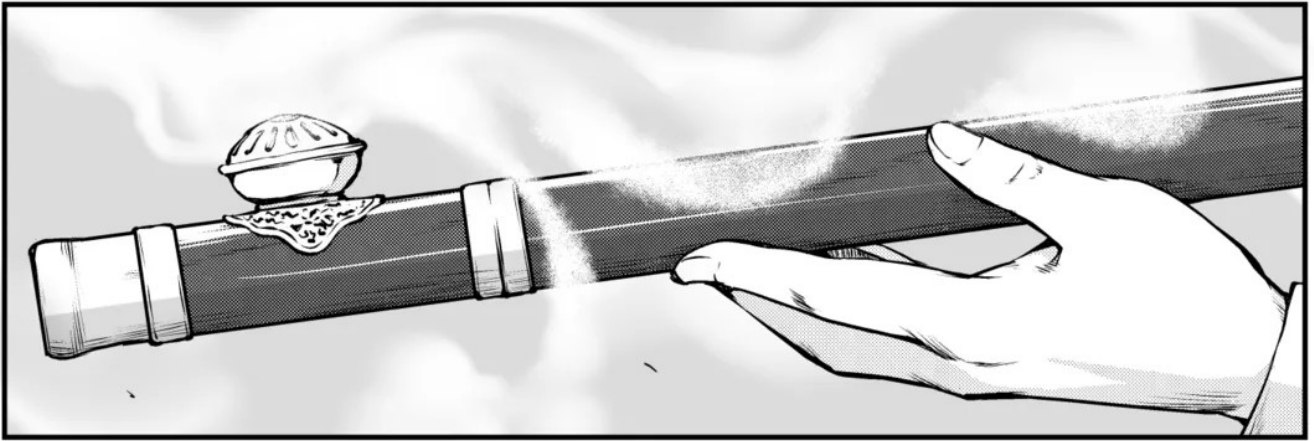
前回までのあらすじ

ウエストランド騎士学校の同級生、勇者ネイサン、剣士クロード、魔法使いノーラは卒業の課題で『竜の森クエスト』を選び旧宗主国の丹国へ出発した。



クエスト中に出会った丹国王子包^{ホウ}を助けた三人は、丹国で表彰され爵位を授けられた。しかし丹国の王宮で勤務を始めた彼らを待ち受けていたのは自分達の常識が通用しない過酷な文化ギャップであった…





クロードは死んだ



僕は
地位財産と
引き換えに

勇者の力と
男性機能を
失った



でも...
まあ...

いつか...



そして
ノーラは

殿下よ

もうすぐ前を
お通りになるわ

ノーラやっぱり
止めた方が…

何言ってるの！
待ってるだけじゃ
すぐに忘れられるわ
そばめ
側女にとって寵を
得るのは戦いなによ



殿下ッ

今日も
素通りされるの
ですか！



お脇毛か
元気にして
おったか

イエマオは
もう長い間
お待ちしてます

今宵こそは
是非私の部屋で
お過ごしください

そうか？

お前達とは
ホンのこの間まで
遊んでたたる

いえ
御覧ください

殿下がみえない日に
一本つつ足した
脇の短冊布がもう
このように！

ははははは
何だそりゃ！

相変わらな
バカ女だな

よいよい

それでは久々に
ネイサン共々
遊んでやろう

お待ち下さい
殿下

本日
寵に預かるのは
楼蘭ロウランとなつて
おります

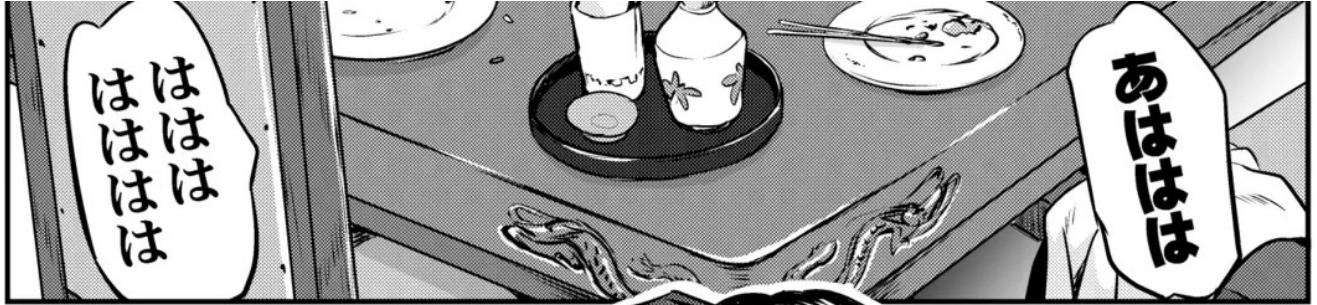
楼蘭はただ今
最高の饗しを整え
首を長くして御来室を
お待ち申してます

分かつとる
分かつとる

楼蘭は次に
回すだけじゃ

お前達から
よく含んでおけ

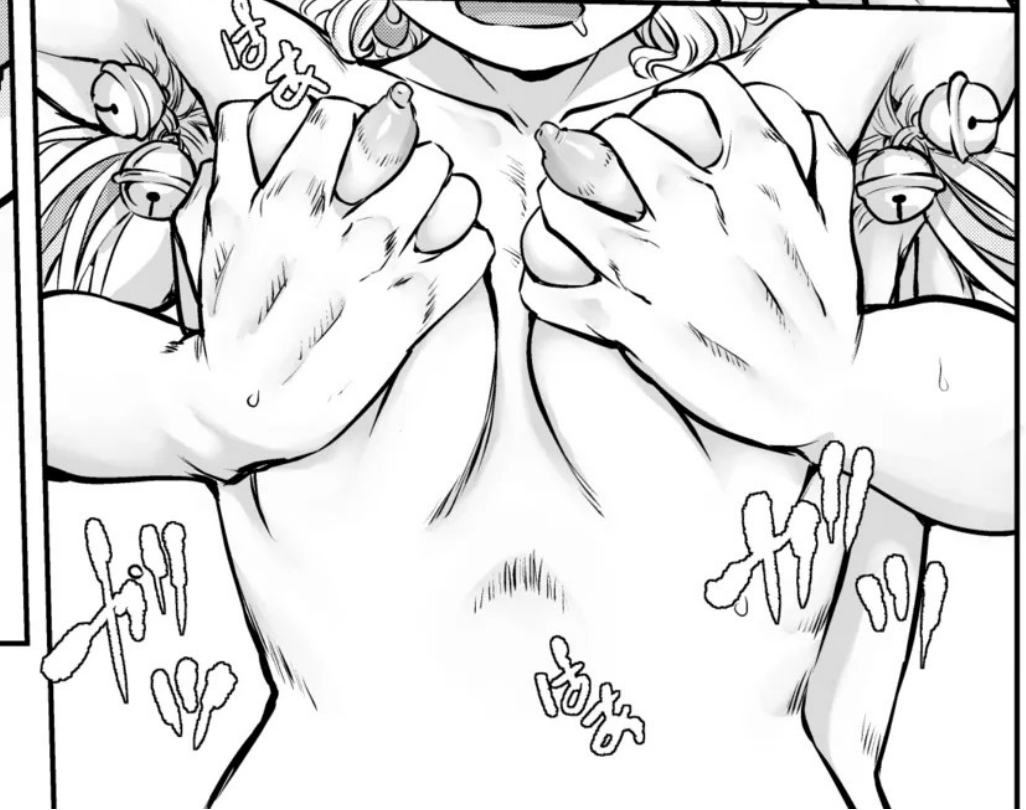
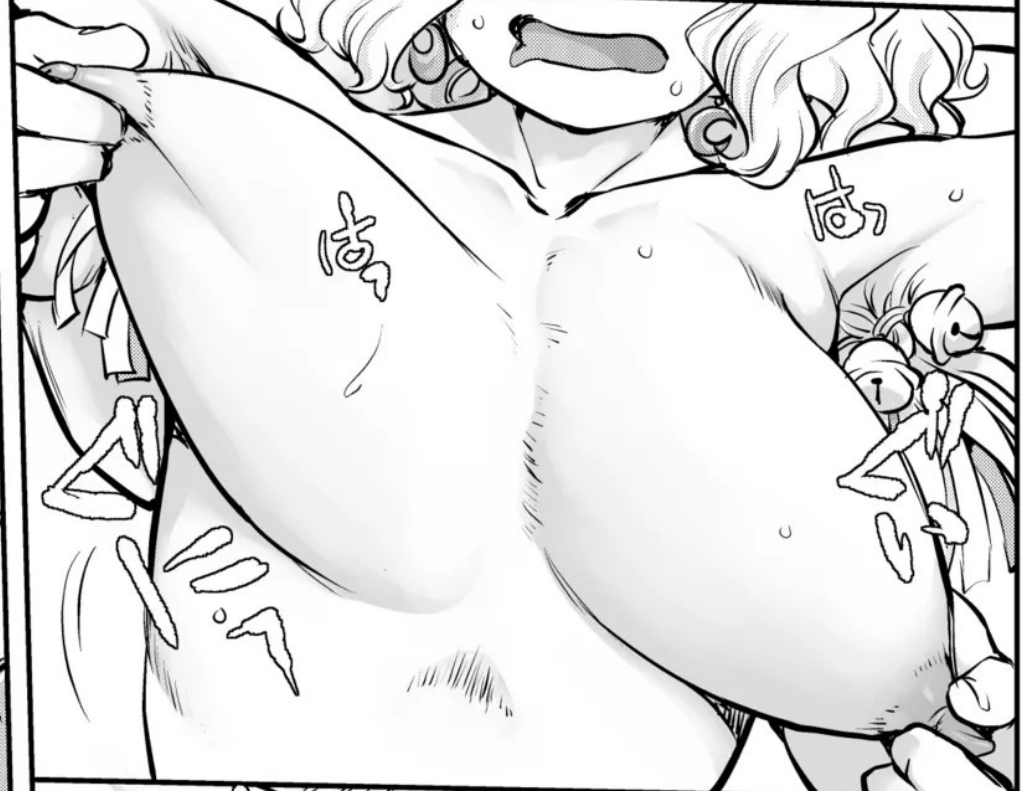
「イェ」





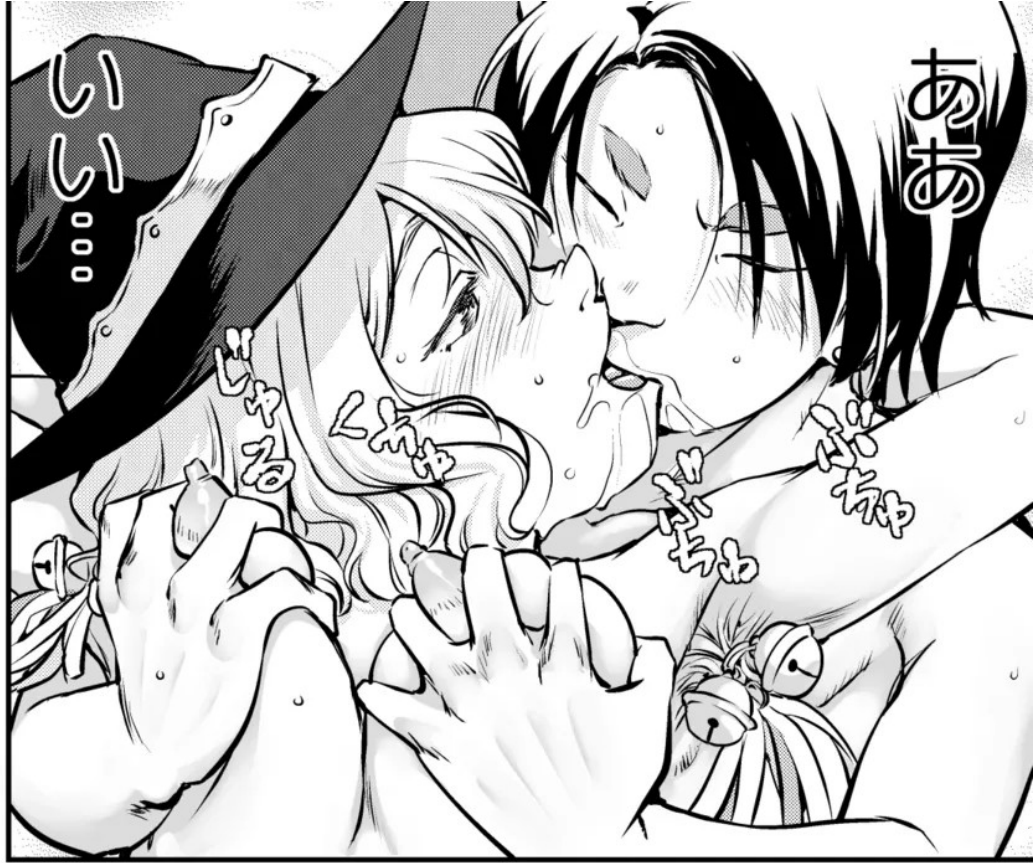
ノーラ
僕は
分かってるよ

一番辛い思い
をしているのは
君だっこと...





全身が
熱い
体が
浮き上がる
みたい……



ああ



男の人に
抱きしめ
られるのが
キツク



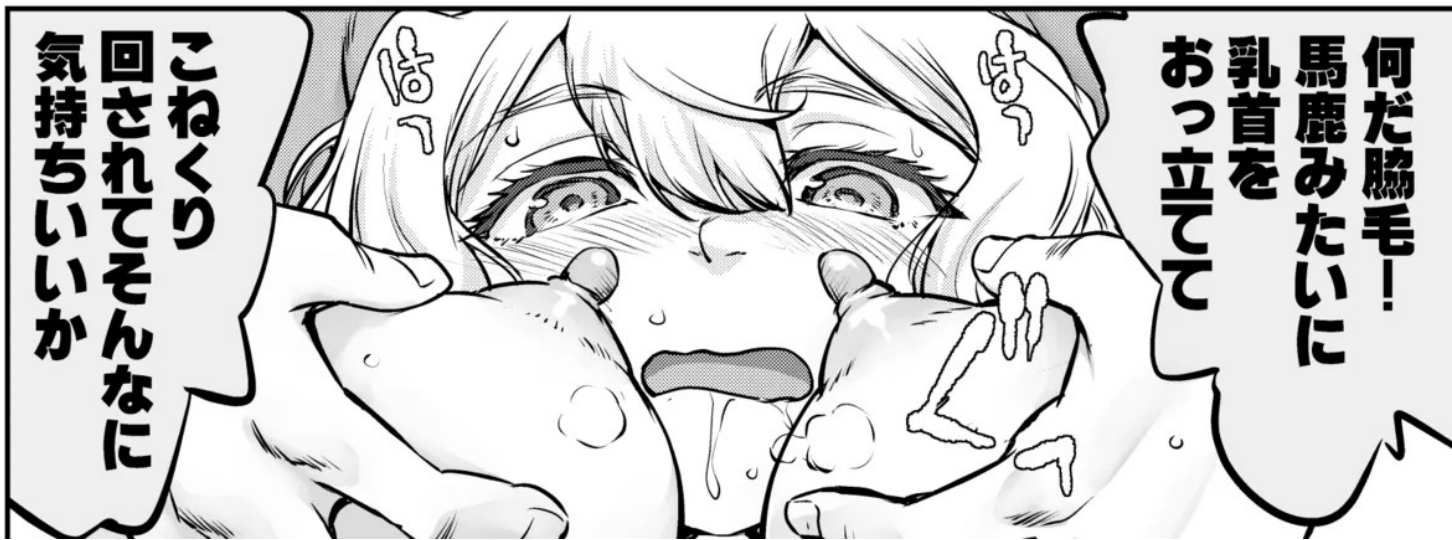
こんなに
気持ちいい
なんて



ノーラから何か
止めどなく腹に
垂れてくる

……
とりあえず

滑らない
よう気を
つけなきゃ

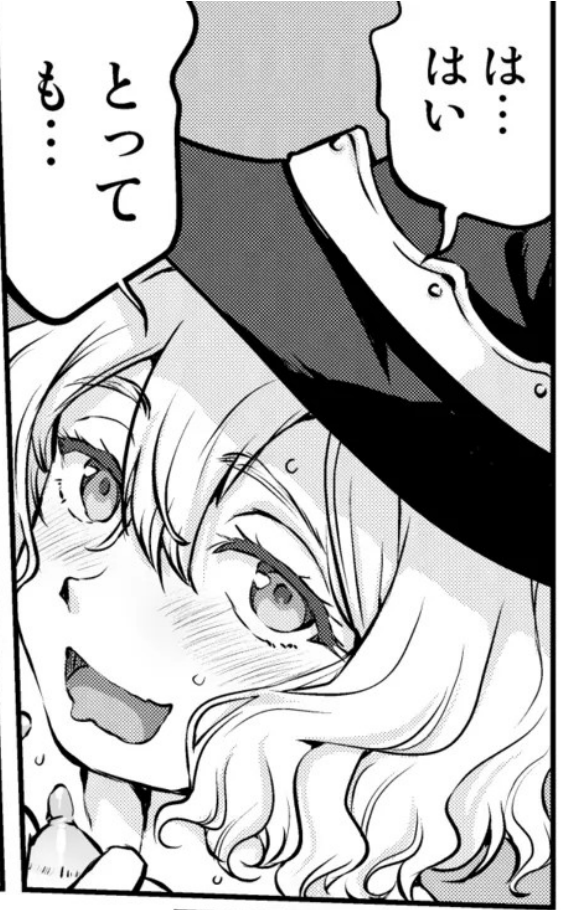


何だ脇毛!
馬鹿みたいに
乳首を
おっ立てて

くわくり
回されてそんなに
気持ちいいか



そのまま
仰向けになれ



はい：
はい

とつて
も...



どうした
こういう時
言うことが
あったよな？

七月

はま

はま

はま

ネイサン
助けてエ!

そうだ

ネイサン
お前も：
と思ったが

あッ

あッ

ネイサン
助けてエ…

ネイ：
サン…
助…

ああん

アッ
アッ
アッ

はみ
馬銜を付けてて
喋れないか
はははは

ざんねんー
根本まで入った

また助から
なかつたな

つーかお前な
さつきから
実をおっ立てて
潮吹きまくりで
シラケんだよ

仮にも前の
想い人の上で
少しは遠慮せんのか

こ…この者は
もう女を満足
させられない
役立たずで

：殿下に
抱かれることが
イエマオの幸せで
ございます

アッ
アッ
アッ

ハッ

ひでー女だ

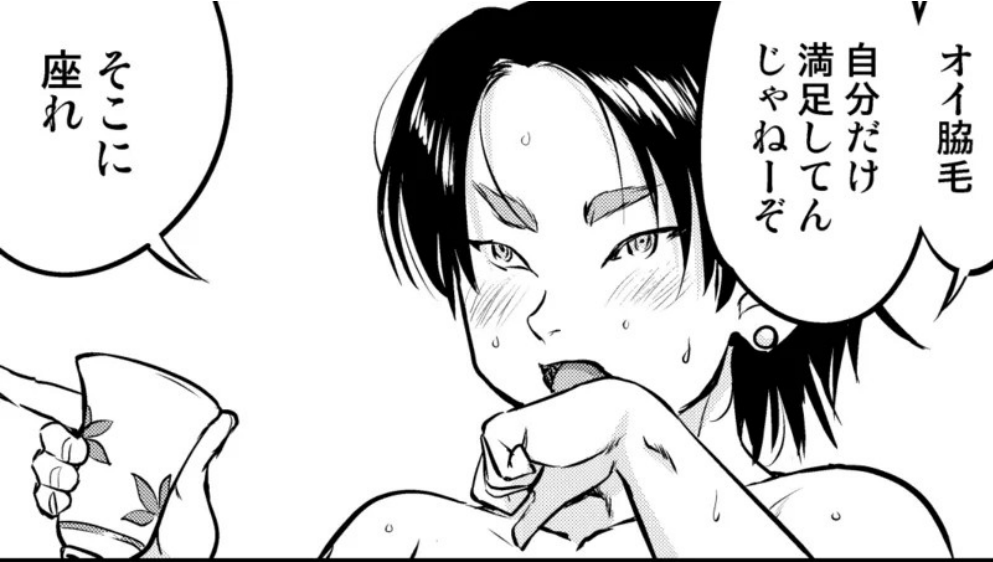
ネイサン
止まるな

そうだ!
女を犯されながら
部屋をグルグル
這い回るんだ



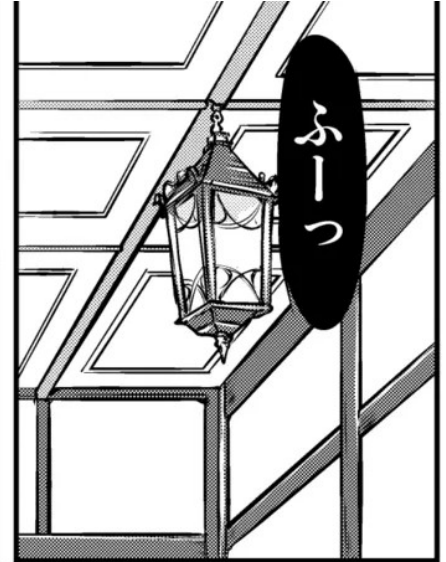
歩き
続けろ



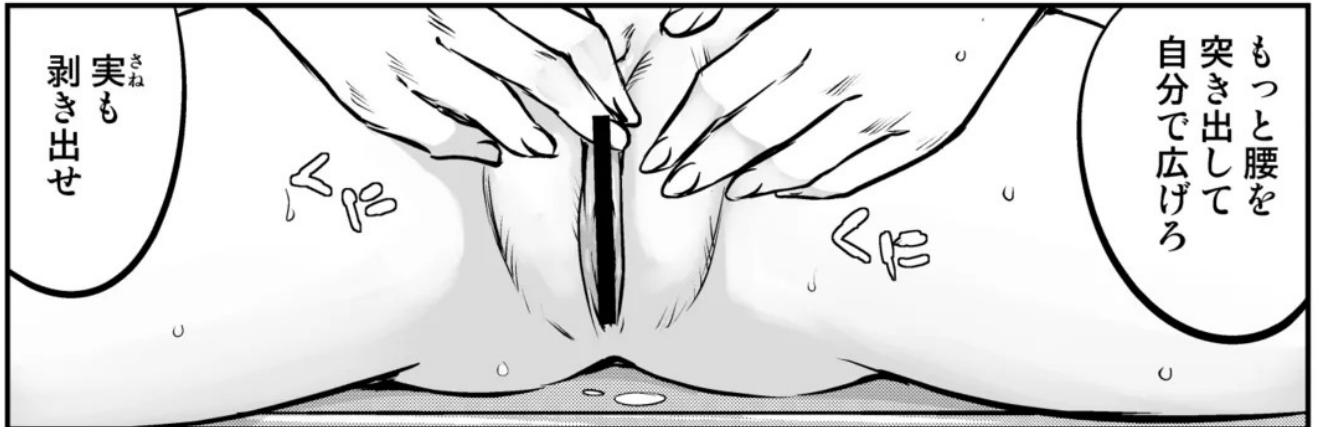


そこに
座れ

オイ脇毛
自分だけ
満足してん
じゃねーぞ

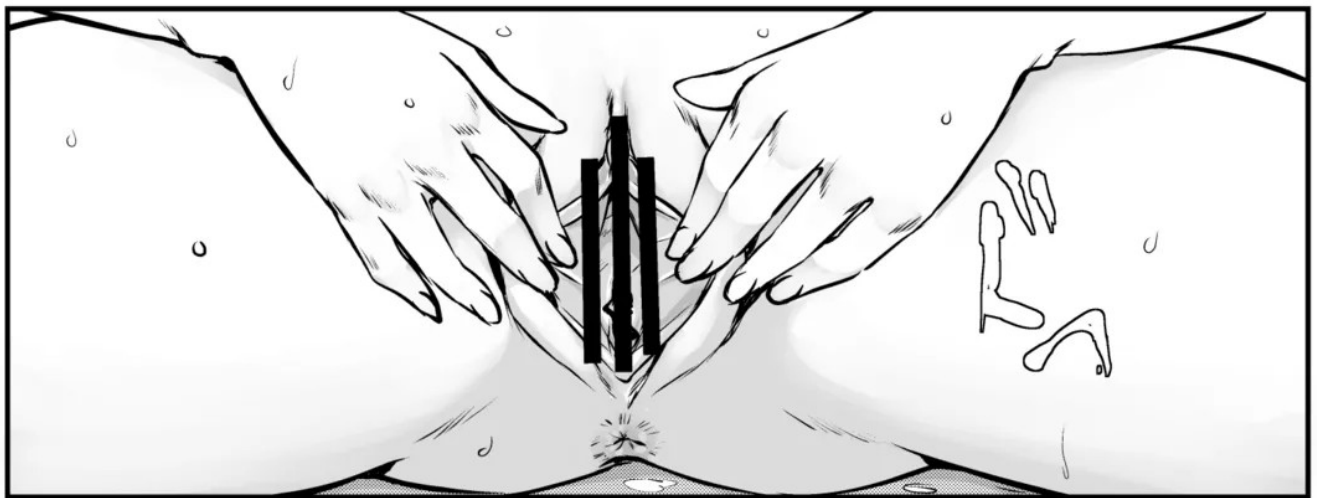


ふーっ



実も
剥き出せ

もっと腰を
突き出して
自分で広げろ



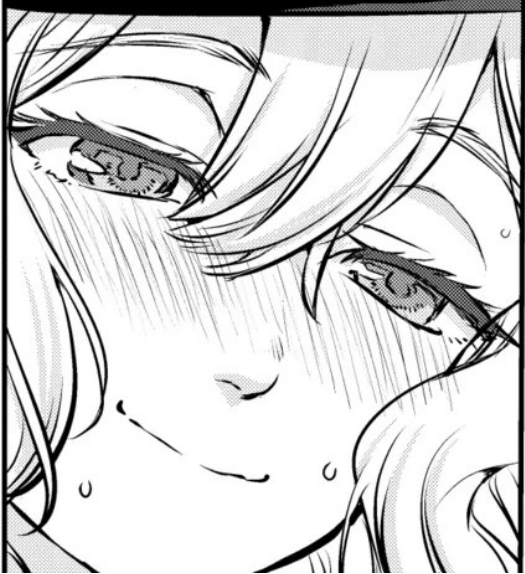
どうだネイサン
ずっとこれを
見たかったろう

竜の森でワシを
助けてくれた
恩返しだ



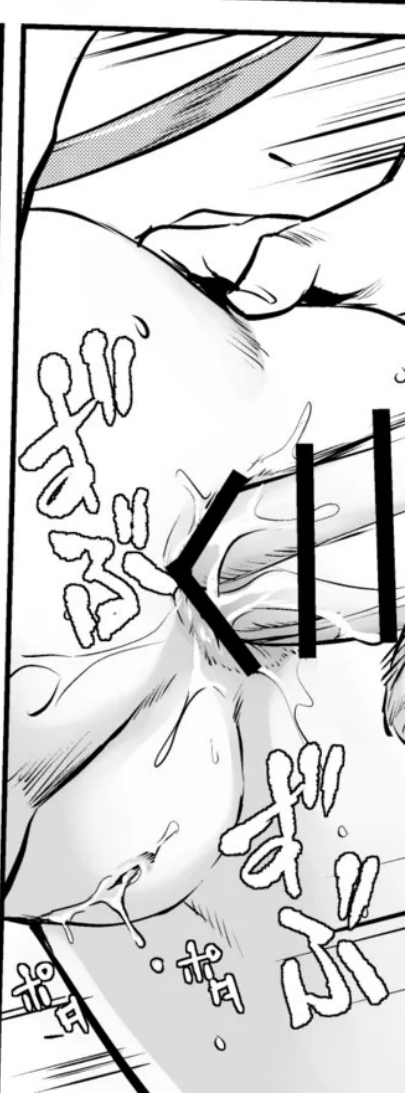
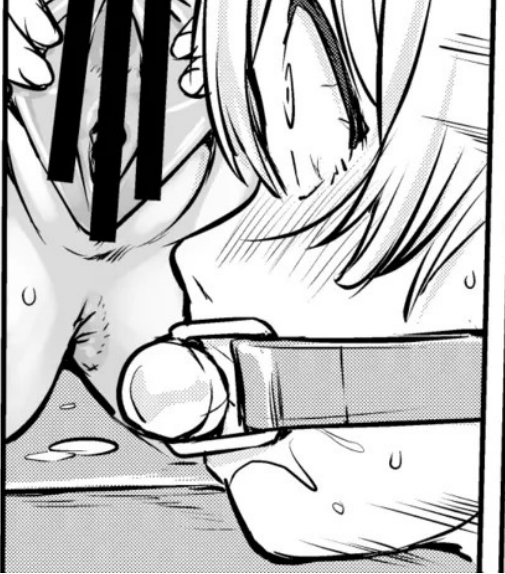
いいのよ
ネイサン
好きただけ見て

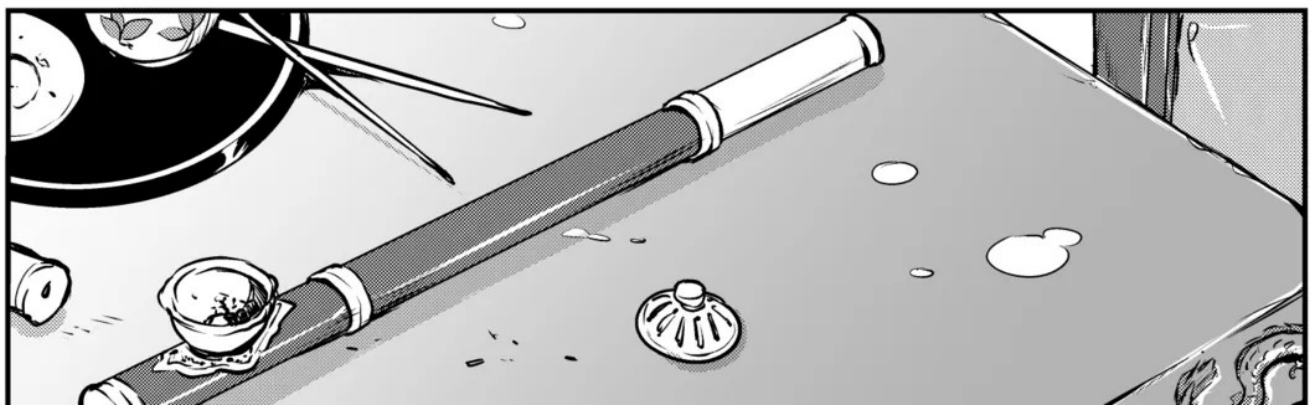
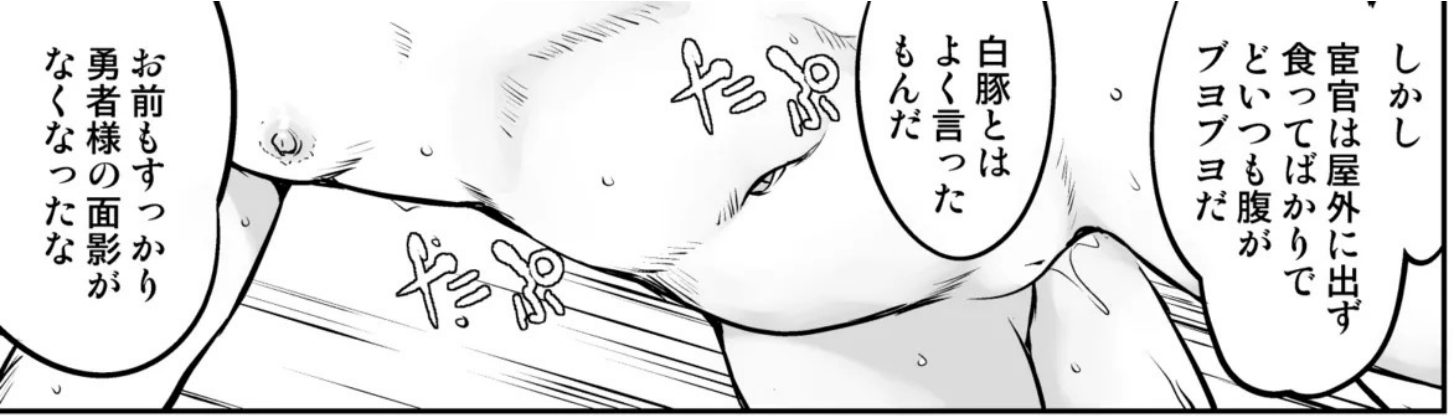
アナタは
遂に入れることが
叶わなかったけど
せめて隅々まで
記憶してちょうだい



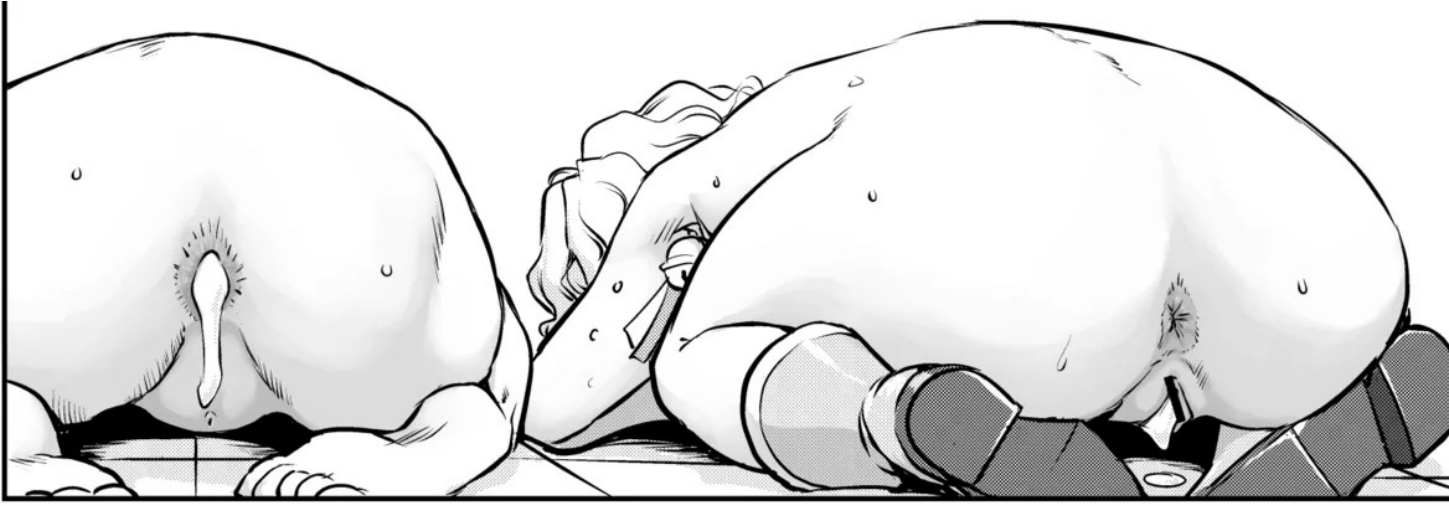
おーおー
掘られながらも
必死に見とるわ

ははは
脇毛お前も
何か言つてやれ





お前もすつかり
勇者様の面影が
なくなつたな

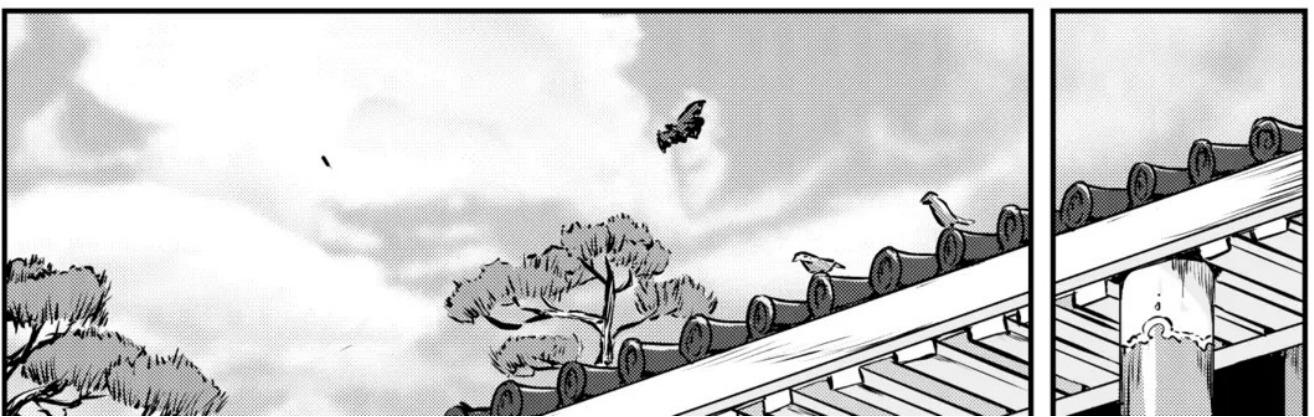


今宵は
予定外の訪問ゆえ
しばらく来れなく
なるが

なかなか
愉快的時間で
あったぞ

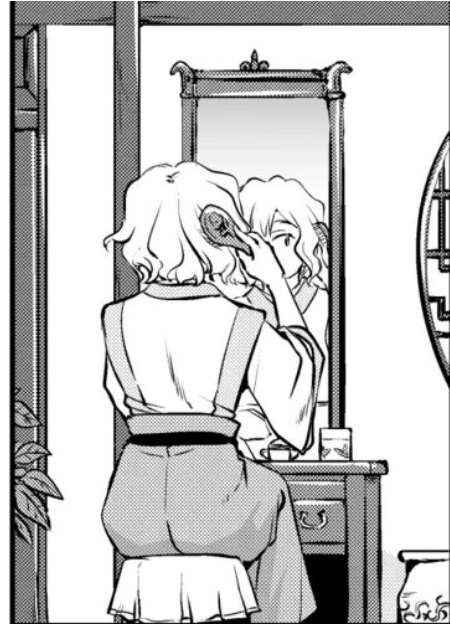
二人共に
ワシが精を
注いでやった
ことを思い出し
これからも仲良く
協力し合って

忠義に
励むが良い





夜伽に選ばれた
翌朝の充足感
ライバルへの
優越感は格別だ



連れ込む
だなんて

お声を
掛けさせて
頂いただけです

後宮では
他の侍女の順番に
割って入るのは
厳禁です

聞きません
でしたか

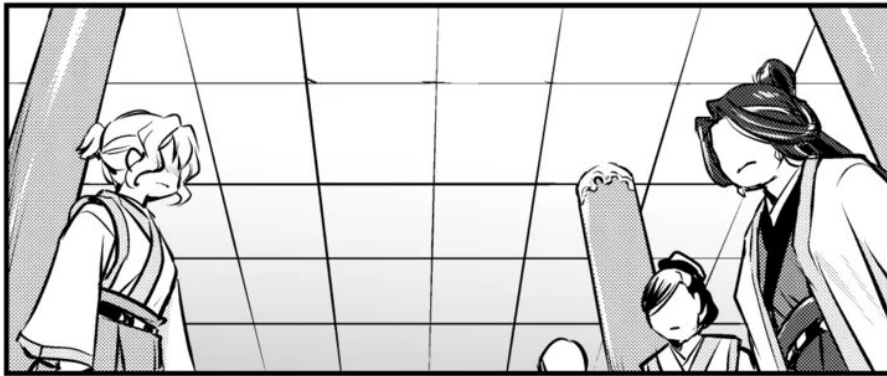
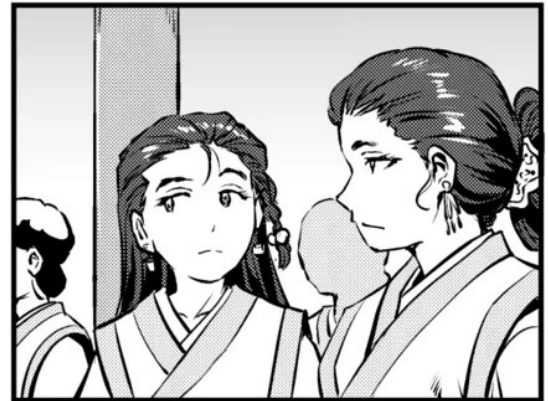
でも侍女長様
みんなで寵を
競ってるワケ
ですから

時には積極的な
姿勢も大事では
ないでしょうか



イエマオ
貴女の言いたい事
も分かります

しかしこれは
長年培われてきた
規則なのです



それなら
殿下の思し召しこそが
何より優先する規則
と聞いてます
望まれないなら
ともかく！
まさに自分が寵を
受けようという時に譲る
なんて出来るでしょうか

それに

あ…
これヤバイかな
言わない方が
いいかな…

今私の身体は
殿下の精で
満たされています

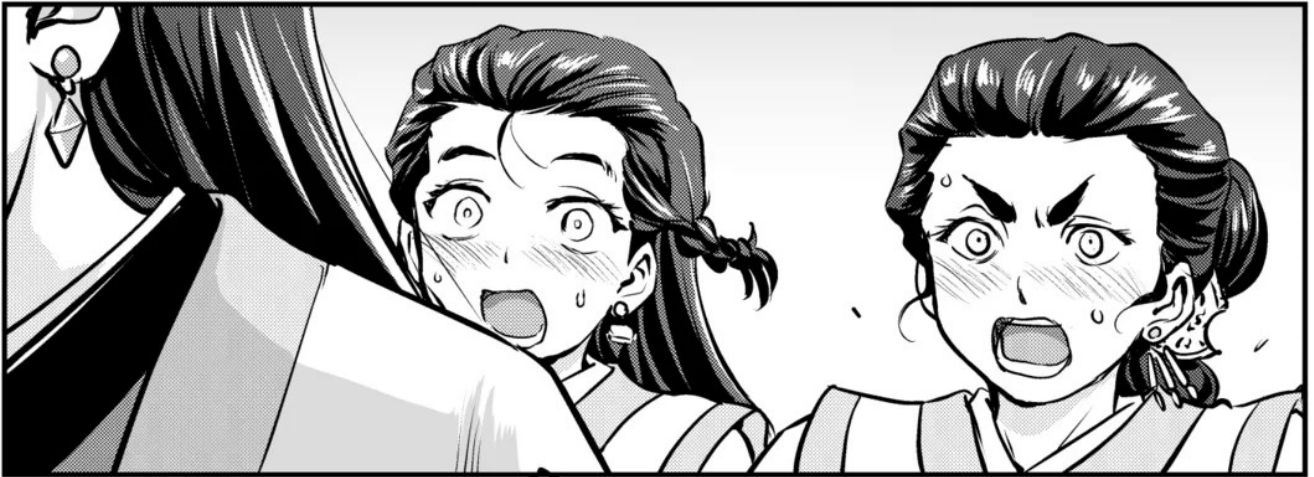




ある意味



かつての
侍女長様や大奥様と
同じ立場だと言えるん
じゃないでしょうか



どうか
お許しください

侍女長さま



申し訳
ありませんでした



衛兵を
呼びなさい

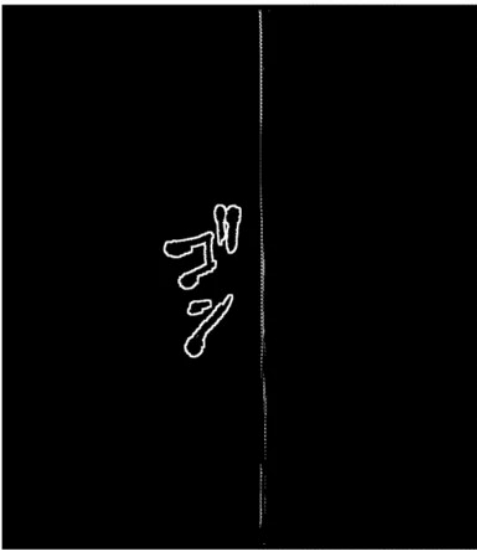


臭い!

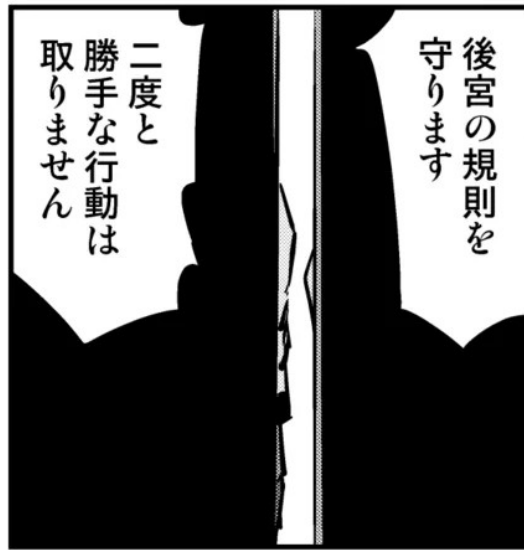
くっ
クサッ



ヒッ



ゴーン



二度と
勝手な行動は
取りません

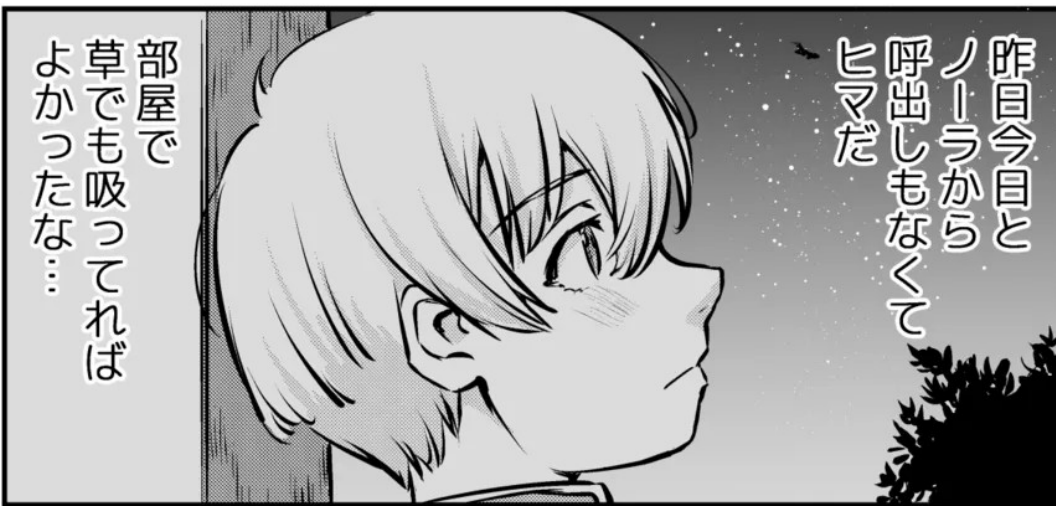
後宮の規則を
守ります



侍女長様に
謝らせて!

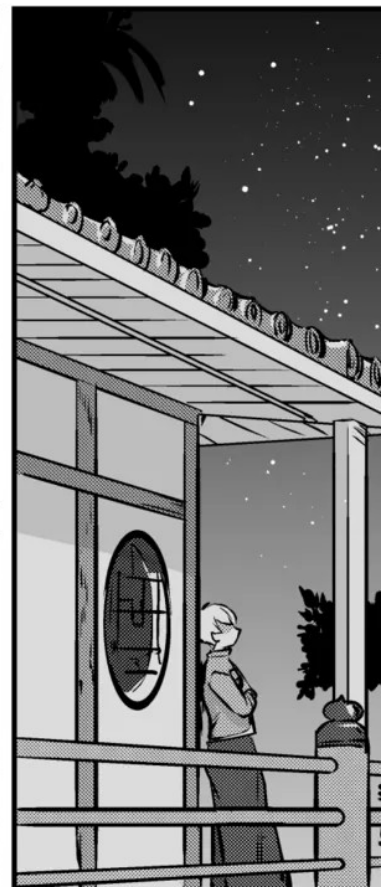
待つて!

キーン



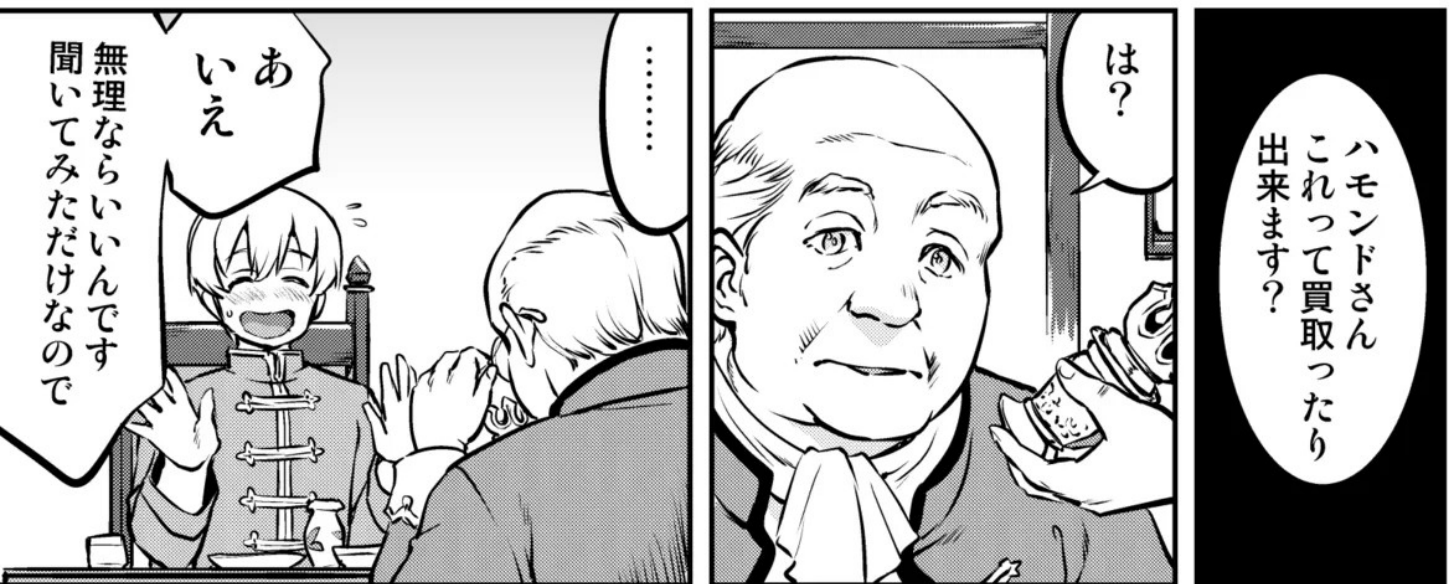
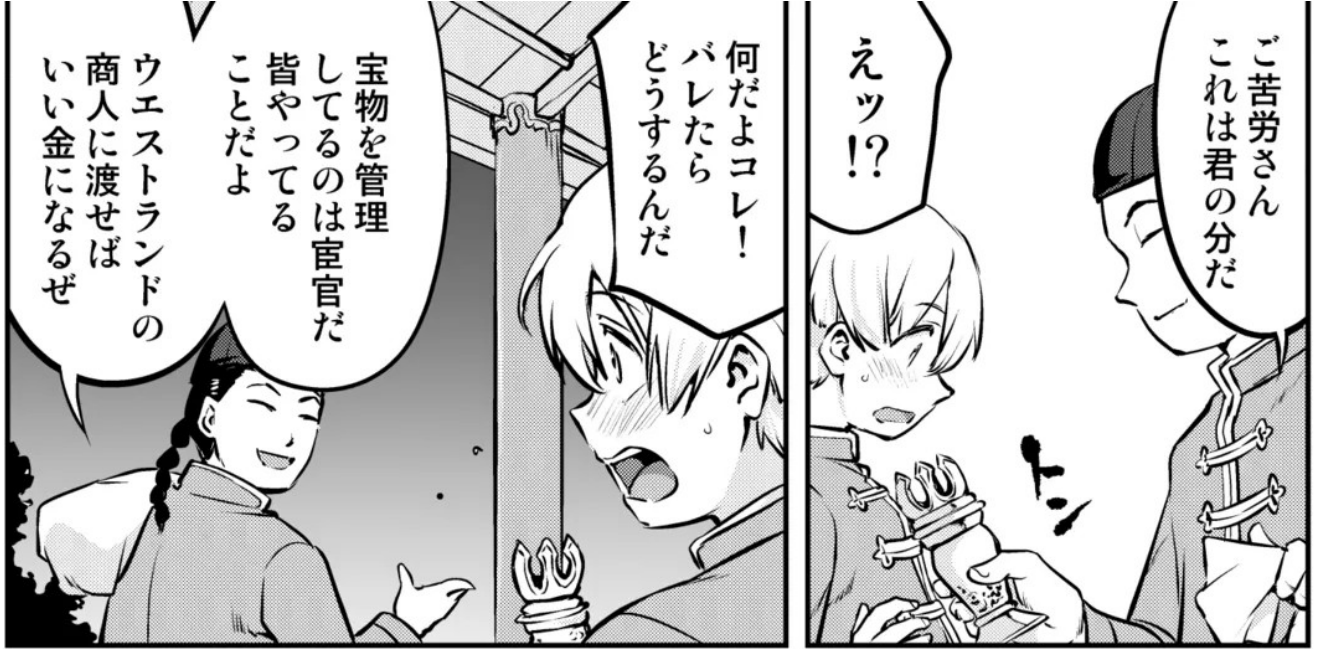
昨日今日と
ノーラから
呼出しもなくて
ヒマだ

部屋で
草でも吸ってれば
よかったな...



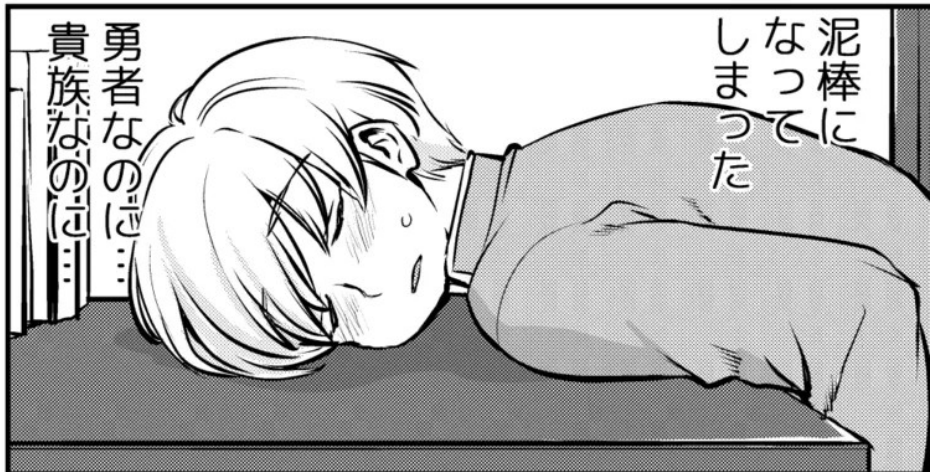
ネイサン
誰も通らな
かったか?

ああ
でもこんな夜中に
宝物庫に何の用が
明日じゃダメ
だったのか?

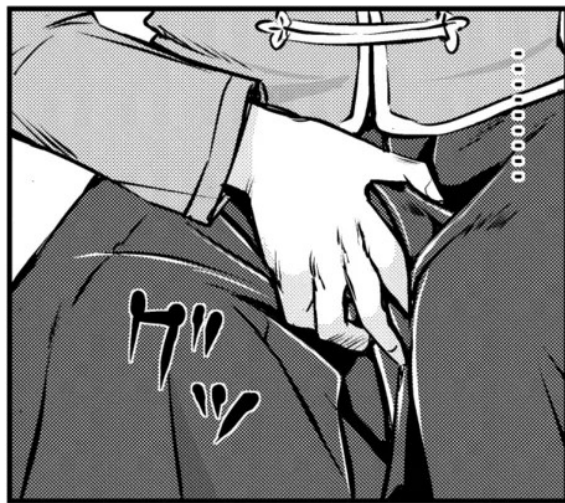




でも
父上も
母上も
お金で
大喜び
してるから
これで
いいのか



泥棒に
なつて
しまつた
勇者なのば...
貴族なのば...

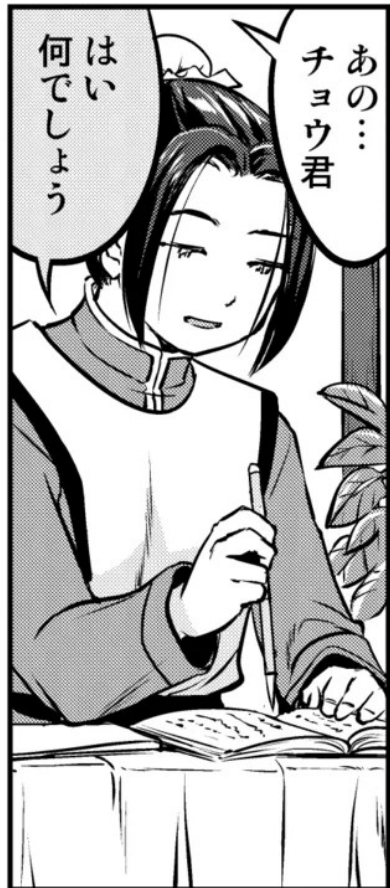


殿下の訪問もなく
ノーラからも
呼ばれない
ヒマだ
ずっと
親の期待に
従つて来たから
自分のやりたい
ことがない



あれって...
どういう事なんだい?

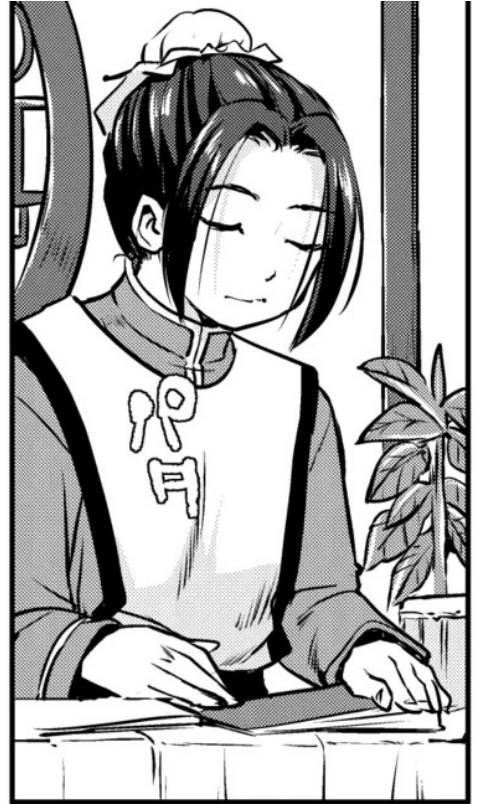
前に言つてたよね
以前仕えた宦官は
君にされるのを
好んだって



あの...
チョウ君
はい
何でしょう



クソッ!
こんな時は一発抜けば
スッキリして気分が
切替えられたのに
なんで
ないんだよッ!!



口で
説明するより



やって
みせまじょう

いや…俺はただ
聞いただけで

私にお任せください
宦官様なら誰でも
やってることですよ

また
誰でも
やってみよう…

射精が出来ず
お辛いでしょう

でも

『乾絶頂』と言って
出さずにイける
方法もあるんです

違うんだ
オレは男色
じゃなくて

ハイハイ
分かってます
とも

でもこっちは
期待でパクパク
してるようですよ

一緒に
気持ちいい所を
探っていきましょう



痛くありませんか

ん…大丈夫

どうですか？

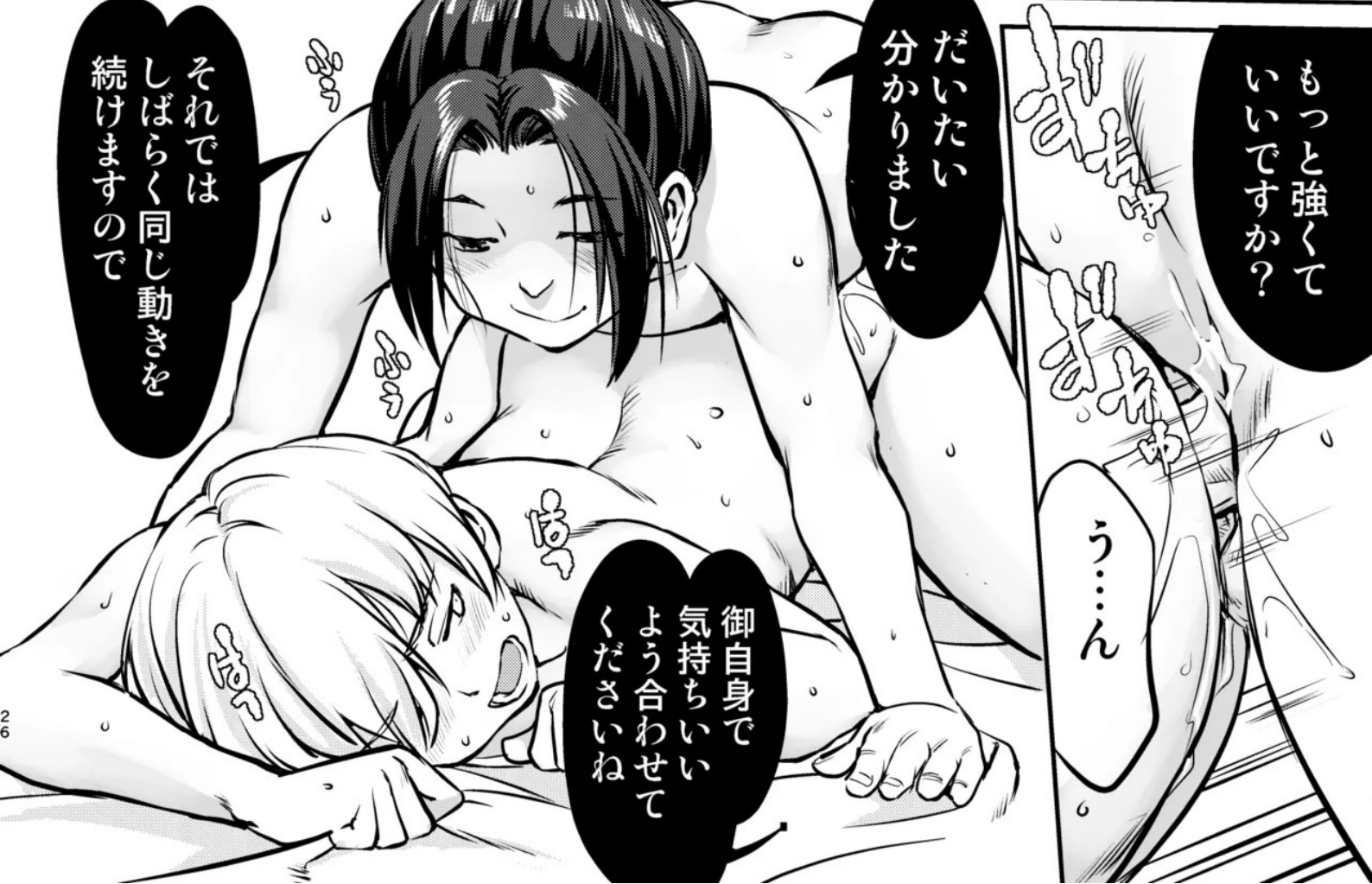
んー…

ここは
どうですか

ここは

あ…
いいかも

そこも
いい



もっと強くて
いいですか？

だいたい
分かりました

だーだー
だーだー

う…ん

御自身で
気持ちいい
よう合わせて
くださいね

それでは
しばらく同じ動きを
続けますので



チヨウくん





ありがとうございます
ございます
ネイサン様
大好きです!!

ふん
ゆう



うん...その
また頼むかも...

...あはは



ぽん



勝手に殺す
訳にもいかない...

ともあれ
殿下の寵が
まだある側女を



イエマオの
様子はとうですか

ハイ
食事は完食してます
昨日は一度出して
壺と体を洗いました

どうです
イエマオ

反省は
出来ましたか

侍女長
さま……

やっと

が口

が口

来て
くださった……

申し訳ありません

申し訳ありません
侍女長さま、

私が愚かでした
猛反省しました！

申し訳
ありません

二度と口応えは
致しません！

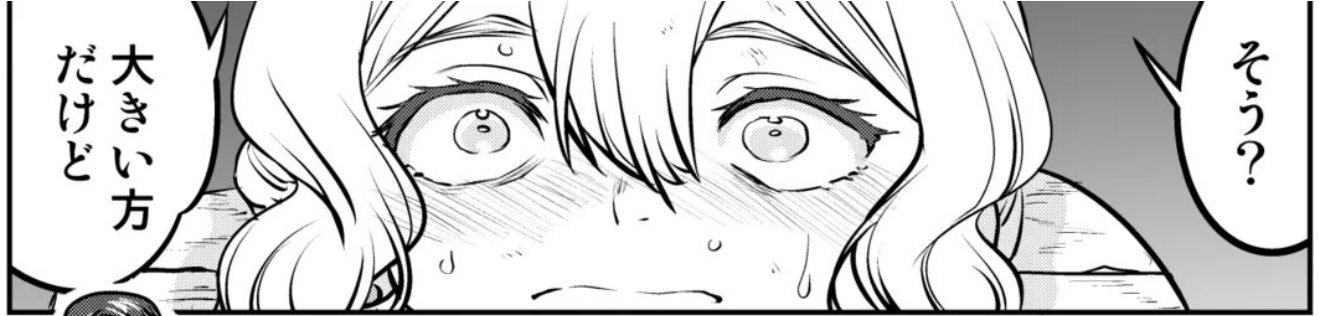
アイヤー
哎呀……
冷えるせい或少し
催して来ちやっ
みたい

ここ
廁ないのよね
困ったわ

侍女長さま

私の口に

イエマオの口に
なさってください！



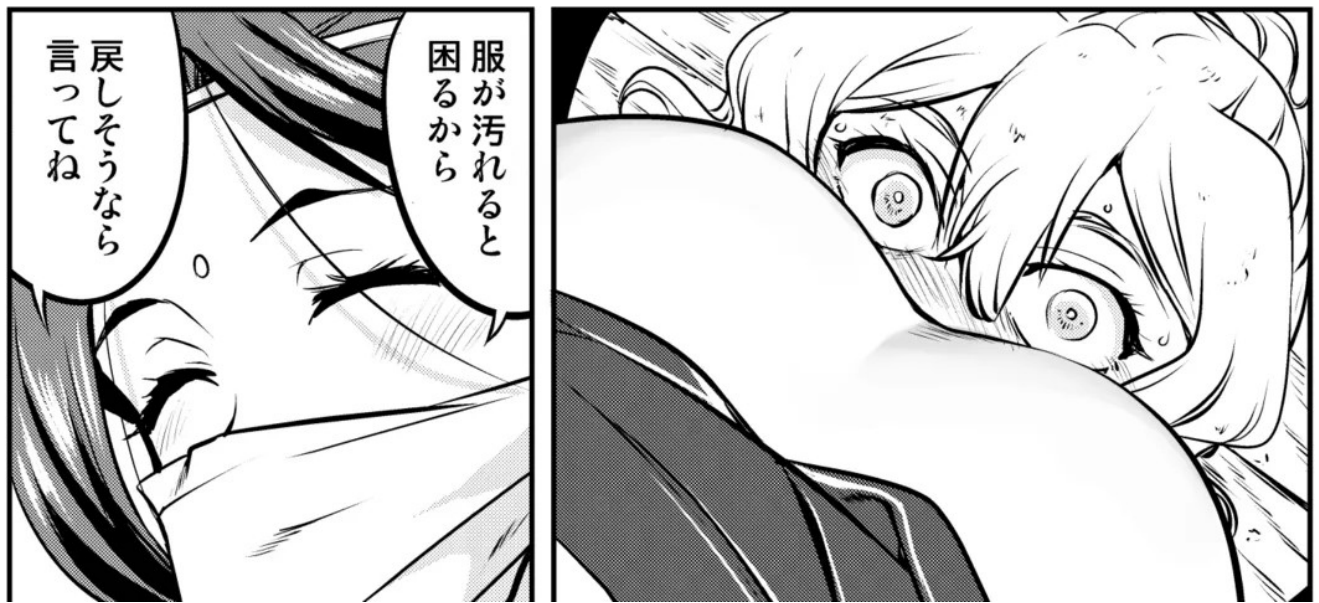
そう？

大きい方
だけど



ここって
汚いから

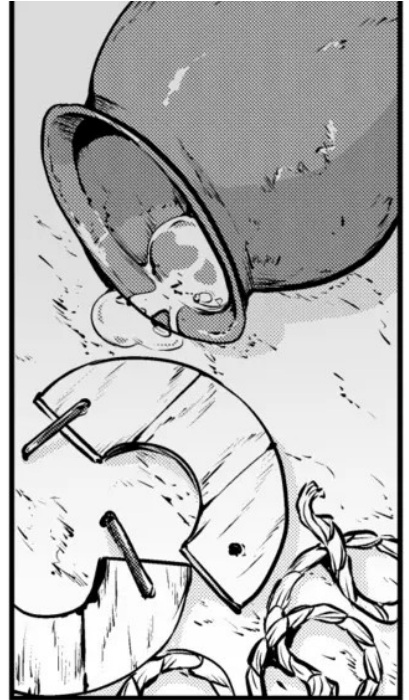
何にも触れたく
ないのよねえ



服が汚れると
困るから

戻しそうなら
言っただけ





ゲホゲホ

そうそう
全部出して
しまいなさい

病気にでも
なられたら
困るしね

でも貴女
ウエストランド女に
しては意外に根性
あるわね

なんか

ちよつとだけ
昔の事を思い出し
ちゃった

さあ キツイ
でしょうけど
もうひと頑張りよ



どうかしら
楼蘭？

このくらいで
割込みの事は
許してやっては





えー

どうしま
しょうかー



分かりました
ろーらんは侍女長様
にお任せします

よろしい

ではこの件は
これで仕舞い
とします

以後は全員
遺恨を残さず
元通り接する
ように

ハイ侍女長様



壺から戻った
人なんて初めてよ

どう
やったの？



イエマオ
立って

侍女長様が
医魔室へ
連れて行けって

体の具合は
どうじやな

ハイ…大丈夫です
関節が固くなって
少し痛む程度で

そうか
では早速
始めよう

カッ
カッ
カッ

傷の
再生詠唱？

あの先生…
ケガとかは
してませんが
何でしょう？

何って

去勢処置
じゃよ

そこを
切断すれば

もう妊娠する
ことはない

えツ…ま
待って
ください！

今ここには
殿下の種が…！

そっ

子を産まれては
困るのじゃ



ホッホ：
杖なしで二級防楯か
学生にしては
上出来だ
魔法課の教育長は
今エミリアだったか
弟子の六期生では
一番才が無い奴だった



悪く思うな
お前のためでも
あるでな
ついでにその
殿下の種も
取除いておこう



あッ

だから今だに
雇われ教師なぞ
やっておる



最後の
生理痛じや
部屋で休め

ううッ



バアさん
何の用じや

昔は美人じゃったが
今では性格が相に出て
見る影もない



ぶひやひや
ひやひや

ホウスイ
芳翠先生
大奥様が
お呼びです



狭い所で
御免なさいね

先生に少し
込み入った相談
があるのです

人は
払ってるので
遠慮なく本音を
語ってください



私は大変
危惧してます

衆道に走った者は
元に戻らないと
言うではありませんか



実は最近
殿下が衆道を覚えて
そちらの方に関心が
向いてるようなのです

ははあ
好奇心旺盛な年頃ゆえ
そういうことも
ありましようなあ

相手は
ネイサンという
宦官です

ああ
あの金髪の

私が去勢治療を
しましたが
小柄で綺麗な顔を
しておりましたな

先生の治癒魔術は
私共はとても
信頼しています

そこで
本題ですが
外がいじれるなら
内もいじれるのでは
ないですか？

例えば

男の身体を
女に変態
させるとか



いや

医療魔術は本来
人の内部までいじるのは
禁忌とされてましてな

本当は感冒の治療や
不妊処置もイカンののです

焚書坑魔

遠隔にて

暗殺などにも使える故
『大帝の時代』に禁じられ
多数の魔術師が生埋めに
されたと記されてます

使用はもちろん許可なく
伝承するのも死罪です

私は『出来るか』
『出来ないか』
聞いているのです

私は解剖術も学んで
人体の内部もだいたい
知っておりますが

これが個々の働き
まではまだ十分に
分かっておらんのです

いじるにはその
構造や機能を正確に
知らないとな出来ません



さて…これで
義務は果たした

ここからは
大奥様だから
申し上げますが
ことです

このバアさんは
怒らせると恐いからな



そしてある日

芳翠^{ホウスイ}
鳥籠を見てみよ

何と雄二羽を入れた
籠に卵がありました
雌雄転換の成功です

しかしこの事が
外に漏れれば極刑です
私は師の身を案じずには
いられませんでした

その点は大丈夫です
後宮内での出来事は
内々に処理できます

先生に
墨が及ぶことは
決してありません

尤もこの話にはオチがあり
生まれた雛も親鳥も
程なく死んだのです

人間の不完全な
知識では雑味の混入や
見落としが避けられない

不都合が生じてても
元へは戻せません

先生は
人助けをされるのですよ
本当は死罪にするのが
簡単なのです

しかし殿下の手前もあり
帝が爵位を与えた異人が
次々消えるのも体裁が悪い

何とか殺さずに
穏便に済ますための
お願いなのです

ハモンドさん
いくらにな
りますか？



今日は
三点ですか
そうですね
百拾園で
引き取らせて
いただきます

えーっ
安くない
ですか？

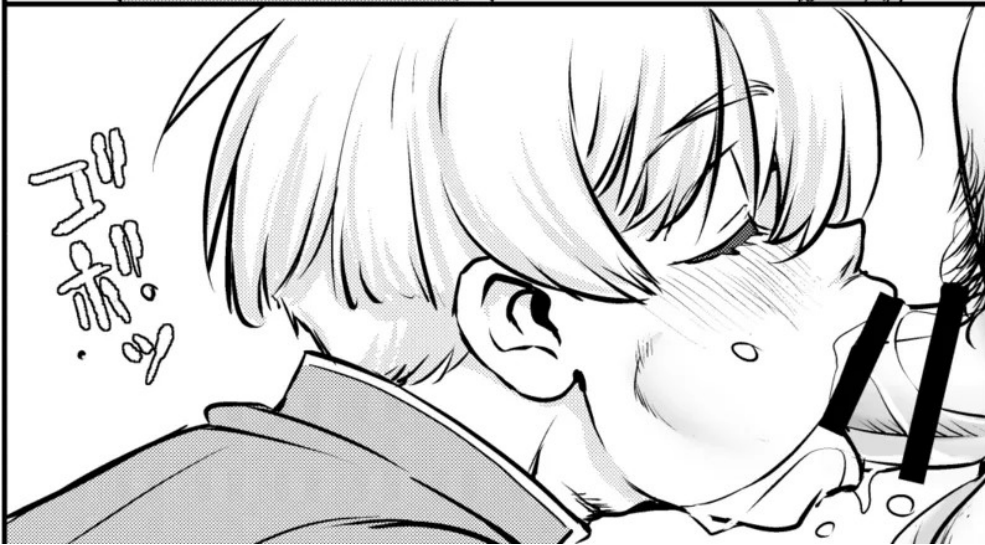
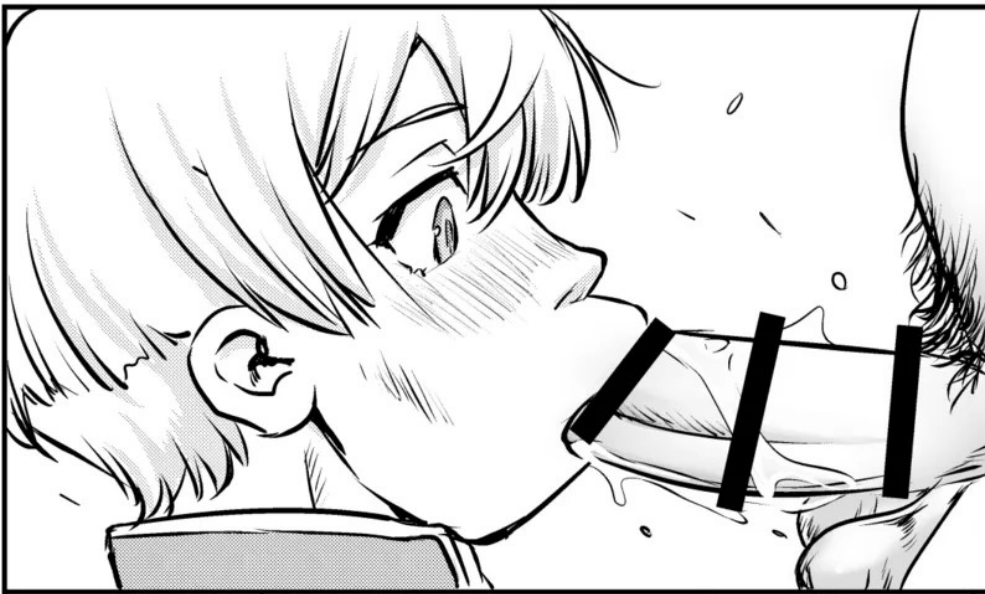
貳百園くらいは
欲しいですよ

つまらぬ詮索はしません
が
これ…盗品ですよ

それはいいんですが
表で売れない品は
私共も買い叩かれて
厳しいですよ

分かりましたよ

次回ももっと
勉強してくださいね







ハイ
薬を飲んだら
すぐに軒を
かいて…



どうだ
眠ったか



チョウ
お前の知った
ことではない

心配するな
明日には
戻るそうだ

殺す
手伝いじゃ
なさそう
良かった…



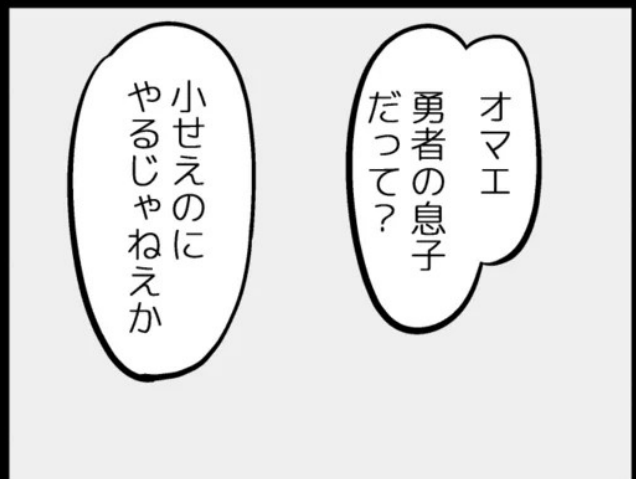
よし

あの
ネイサン様を
どうするんですか
素直で
いいお方ですよ



メイヤー君
誕生日だね

ヒールの小瓶
プレゼント♡



オマエ
勇者の息子
だつて？

小せえのに
やるじゃねえか

ん…もう昼？
いつの間にか
寝てた…

あれ？
…手が…

僕の手か
これ…？

こんな
細かったっけ

胸が
腫れてる…

カッ

カッ



女に

なつてる!?

性器を取ると
女になつて
しまうのか!?

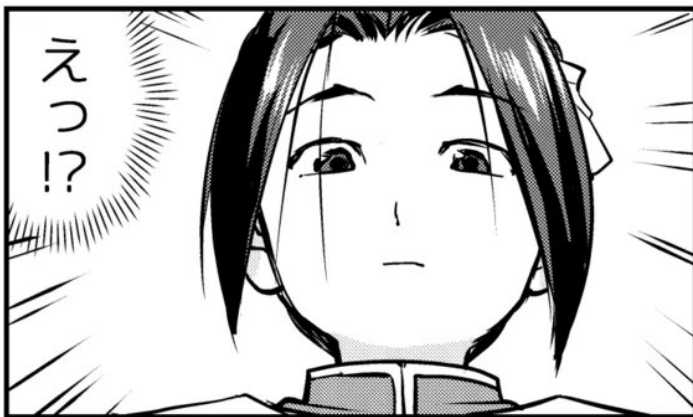
いやいや…
他の宦官は
なつてないし



何もなかった
股間も

女みたいに
割れてる





どうしたら
いいと思う？

まあ

なつたものは
しょうがなく
ないですか？

今までも半分は
男じゃ無いような
ものでしたし

そんな…
なんで全然
驚かないの？

それ多分

最高レベルの
禁忌魔法よ

ノーラ

魔法で人体を
大きくいじるのは
たいじょう
『戴杖式の誓い』
に反するし

医術の知識と
長時間に渡る
詠唱が必要だから
できる魔術師は
ほぼいない

いろんな意味で
とんでもない
爺さんだわ



それにしても
ネイサンあなた
性移転だけ
じゃなくて
随分若返って
ない？

何かちよつと
イラって
来るんだけど
弾いていい？

し…
知らないよ



ともかく
宦官じゃなくても
世話役は続けて
もらうからね
いらっしやい！

ちよつ
ちよつと
ノーラ！



おう
ネイサン

おなご
女子になった
らしいの

お…お恥ずかしゅう
ございます殿下

ネイサンの
初物ほせひ
殿下に捧げたく

僭越ながら
急ぎご連絡させて
頂きました



ほう
肌もスベスベで
どう見ても小娘じゃ

ホウスイ
芳翠先生の術は
たいしたものだな

はい

髪はこのイエマオが
伸ばしました



黒髪族は
義理を重んじる

今でも竜の森で
助けてくれた事は
忘れておらぬぞ

望み通り
ワシ自ら
摘んでやろう

お前
男の時も童子わらし
みたいに小さ
かったが

女になっても
まるで童女じゃな

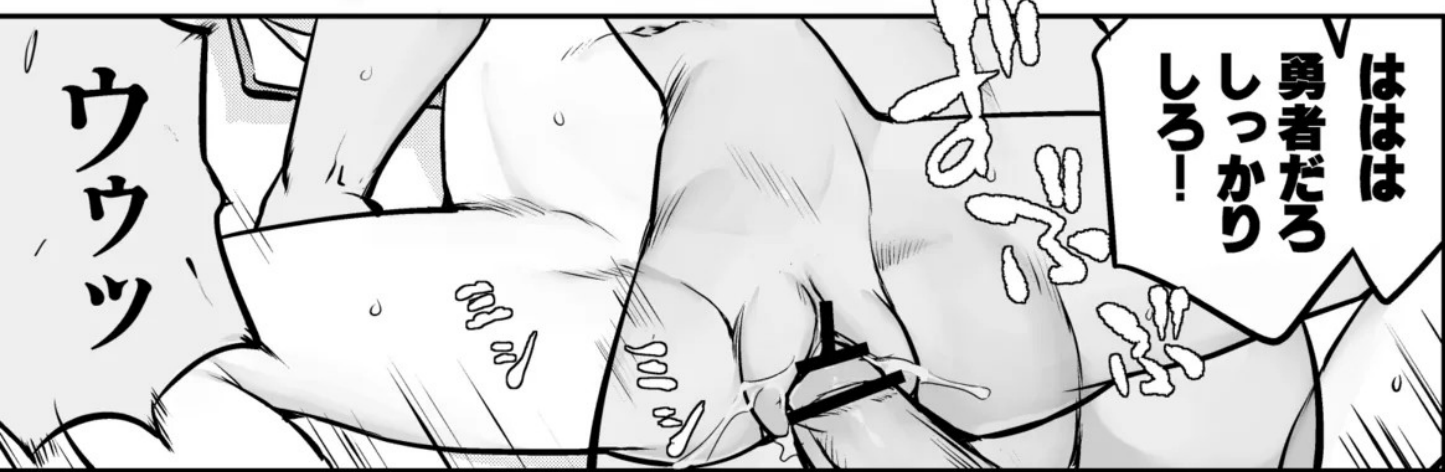
どうだ
入りそうか

怖いです
殿下…



ははは
勇者たる
しっかり
しろ!

ウウツ



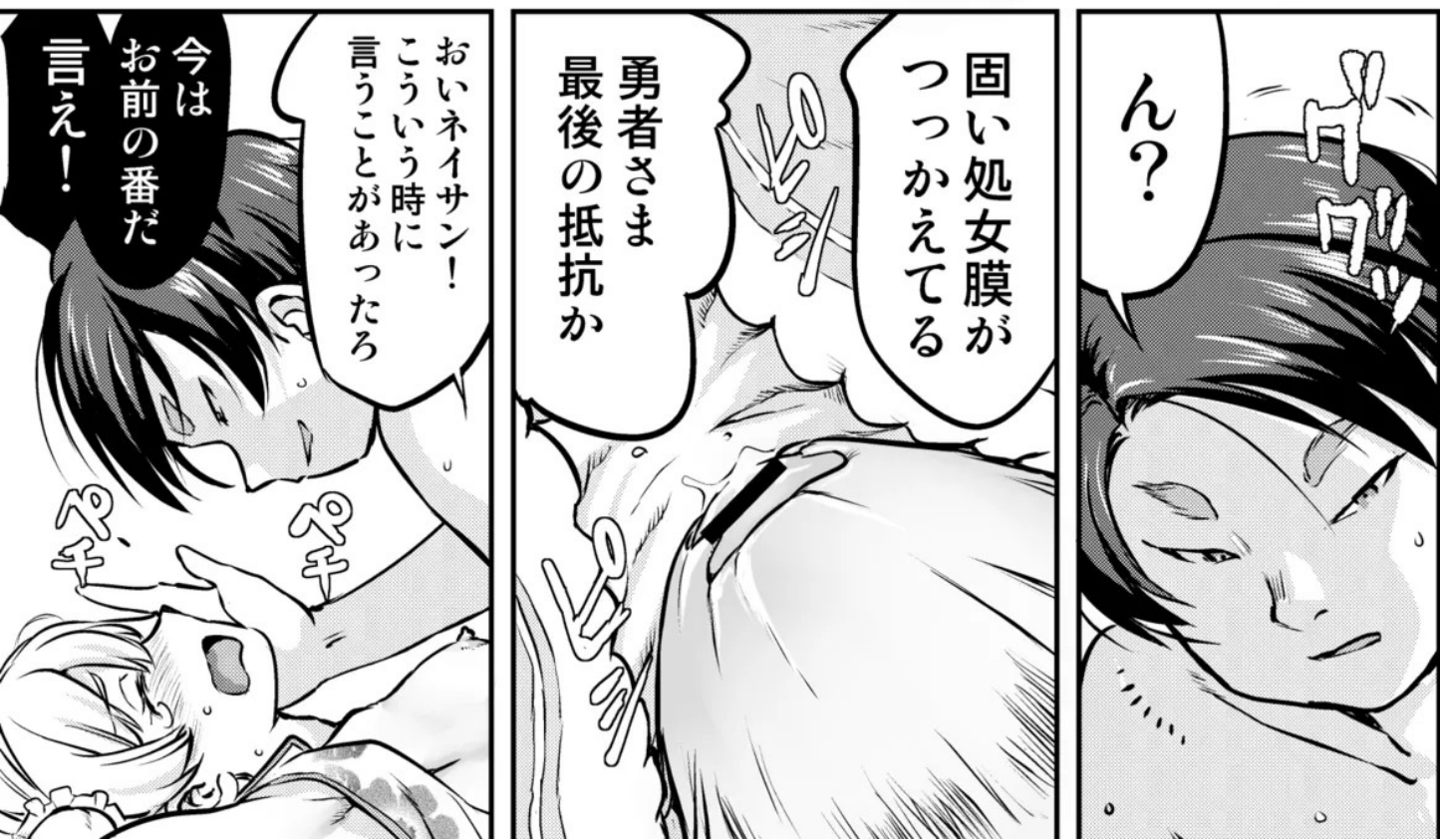
ん?

固い処女膜が
つつかえてる

勇者さま
最後の抵抗か

おいネイサン!
こういう時に
言うことがあったら

今は
お前の番だ
言え!





ノーラ助けて

痛い
痛い!



お前はワシの
尻穴を舐めてろ

オイ
脇毛!



そうだ
言い続ける



あ
あ
あ



ノーラ
助けて

ノーラ
助けて

声も
すっかり
女だ



あ
あ
あ



オラ
勇者の砦
陥落だ!

痛みで失神したか

もう勇者を名乗る必要もないだろう

脇毛

一応貴族だしてお前の妹にして侍女として使ってやれ

これからは一侍女として生きていくといい

はい殿下

クロードも生きてれば女にさせたのに惜しいことをしたな

そうすればあの時のお前達のパーティー全員ワシが膜を破って女にしてやれたのに
はははは

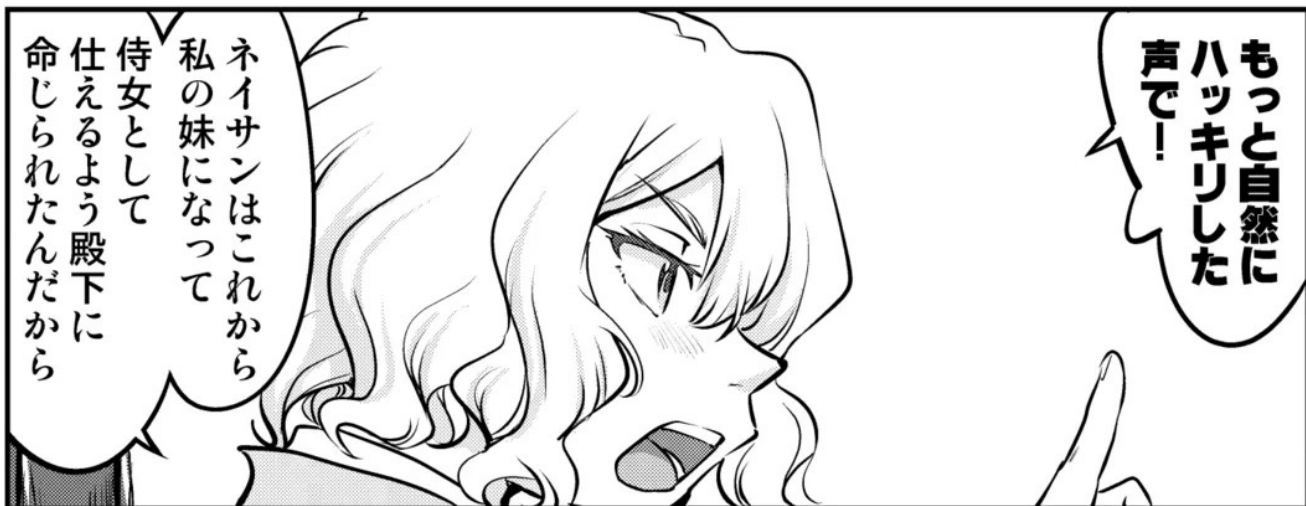


ハイ
言って



イエマオ
姐さま

イ…



もっと自然に
ハッキリした
声で!

ネイサンはこれから
私の妹になって
侍女として
仕えるよう殿下に
命じられたんだから



イエマオ
姐さま

そ…
そうだね



ただ人前じゃ
立場通りに振る舞わ
ないとマズイでしょ

別に
二人だけの時は
今まで通りでいいの



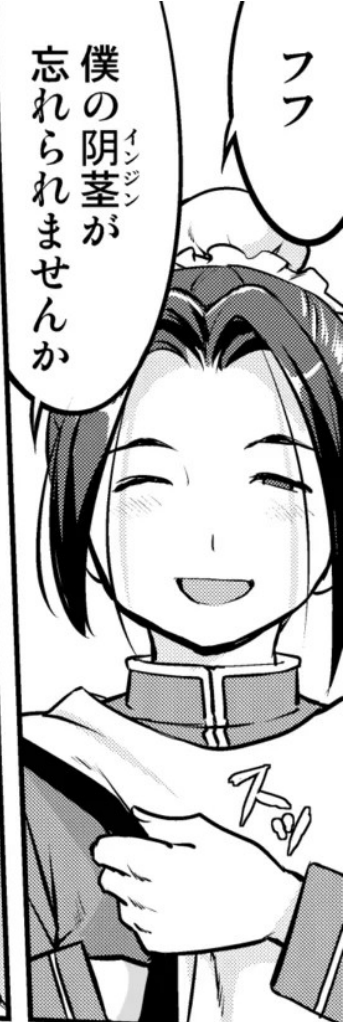
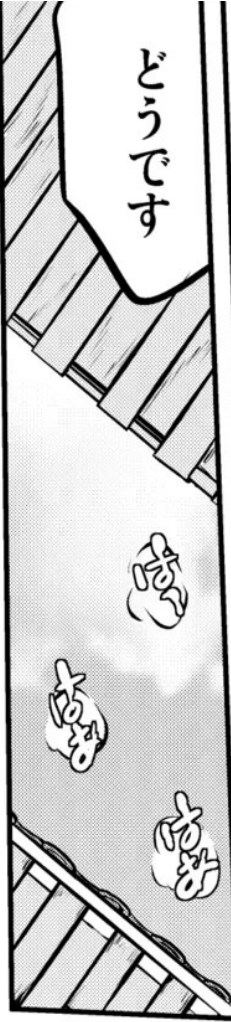


フフ

僕の陰莖が
忘れられませんか

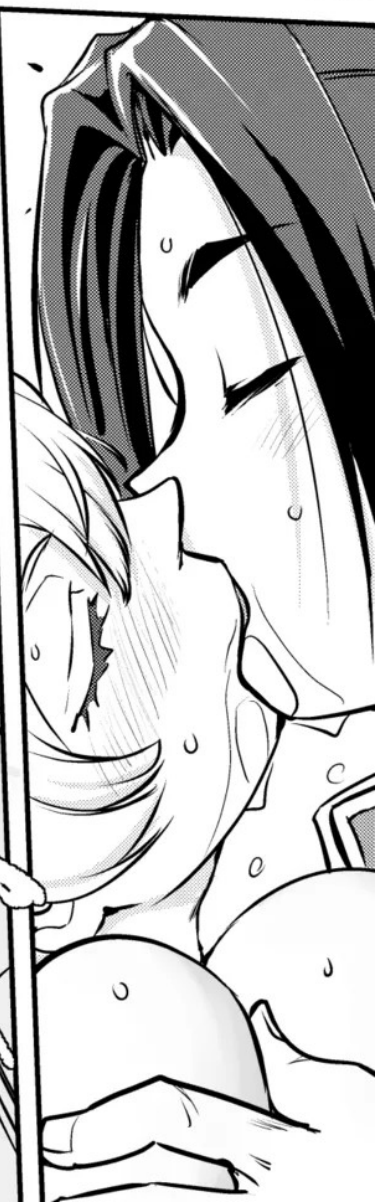
どうです

望みが叶い
ましたよ!



出し
ますよ

あああ
イク！
チヨウ君



それでは
姐さま
おやすみなさい

待って

こっち
いらっしやい

今日は女同士
一緒に寝ましょ

ネイサン
今の生活って
辛い？

え？…
うーん何かいろいろ
起こりすぎて…
辛いのかどうかも
もう良く分からない…

ただもう
ウエストランドには
戻れないだろうし

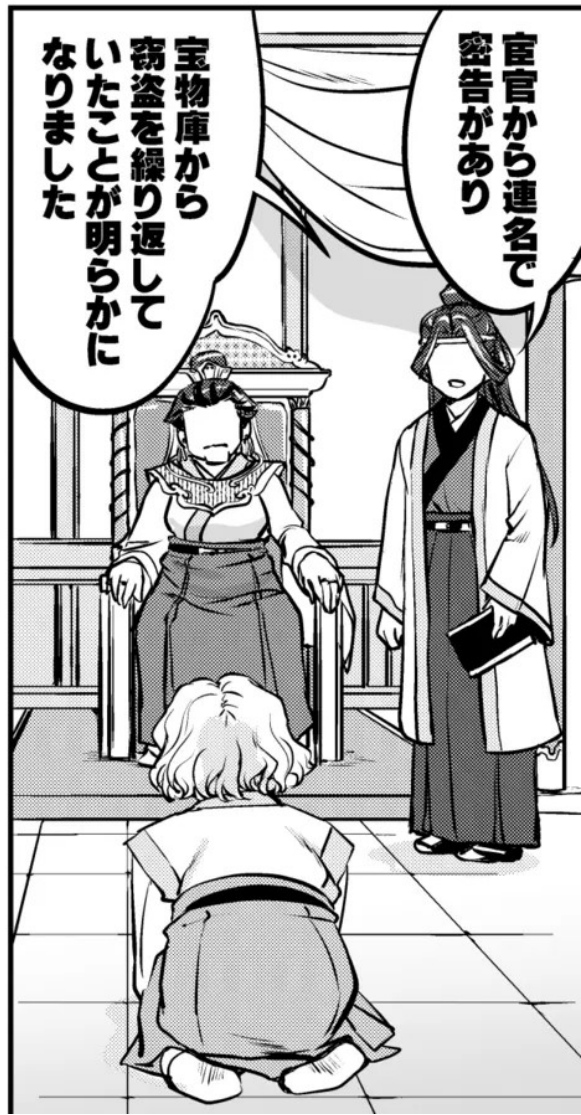
ここでの
将来がどうなるの
かが怖いかも…

安心して

将来
どんな事が
起こっても

ネイサンは
私の側に置いて
あげるから

うん



王家の財宝に
手を付けた
罪は重い

市中公開での
『凌遅刑』となる
でしょう

凌遅刑……

ひびく……

クロードに続いて
ネイサンまで……

もしかして
私達が邪魔で
全員殺す
つもりなの？

ただ殿下は処置に
ご不満のようです
命だけでも救って
やれぬかと

信頼を裏切った
盗人に対してすら
何と慈悲深い

えッ

で……
殿下ッ

しかし犯罪者が
処罰も受けず
城内を歩き回っては
示しが付かない

ここは一つ
お前が知恵を出して
私達を納得させて
はどうか

出せねば
ネイサンの
ことは諦めよ



そうは言うが

人はずっと
拘束されるのを
嫌がるものを
目を離れた際に
逃げるかもしれぬ

逃げようとも出来ない
ようにいたします

もし
命だけでも助けて
いただければ

以後は私が
責任を持って最後まで
ネイサンを管理します
目の届く範囲から
出る事を許しません

強制纏足てんそく
足枷でも繋いで
おくつもりか？

だが自らの足首を
切って逃げおさせた
故事もあるぞ

それに
最後まで面倒を見る
と言っても

お前が
先に死ぬこと
だってあろう

私が死んだら
それ以上生きられぬ
ようにします

それが同時に
決して逃げられない
理由にもなるのです

考えを
言ってみよ

ネイサンを

壺に
いたします

第三取調室

侍女長様
まだ口を割りません

降ろしなさい

イエマオと
話をさせます





助けて...

姐さま...



信じたくないけど
ネイサン...
これ本当に
盗んだの



...そんなには
盗ってない

僕だけ
じゃないと
言ってるのに
聞いてくれない
んだ...

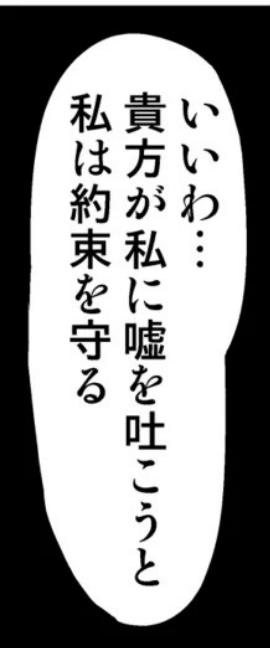


は... は... は...

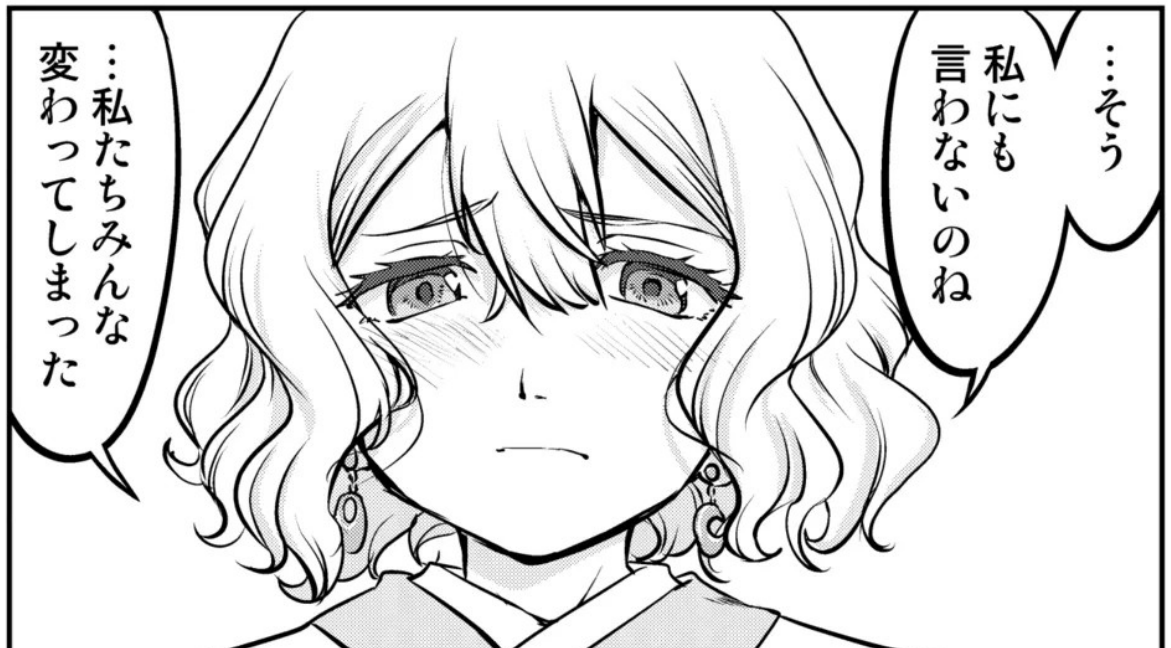


それで
売ったお金は
どうしたの!

助かりたいなら
今すぐ答えて



いいわ...
貴方が私に嘘を吐こうと
私は約束を守る



...そう
私にも
言わないのね

...私たちみんな
変わってしまった



ノーラ・プリアアー
君が僕に好意を
抱いていることは

最初に会った頃から
気づいてたよ

君は何でも
態度に
出るからね

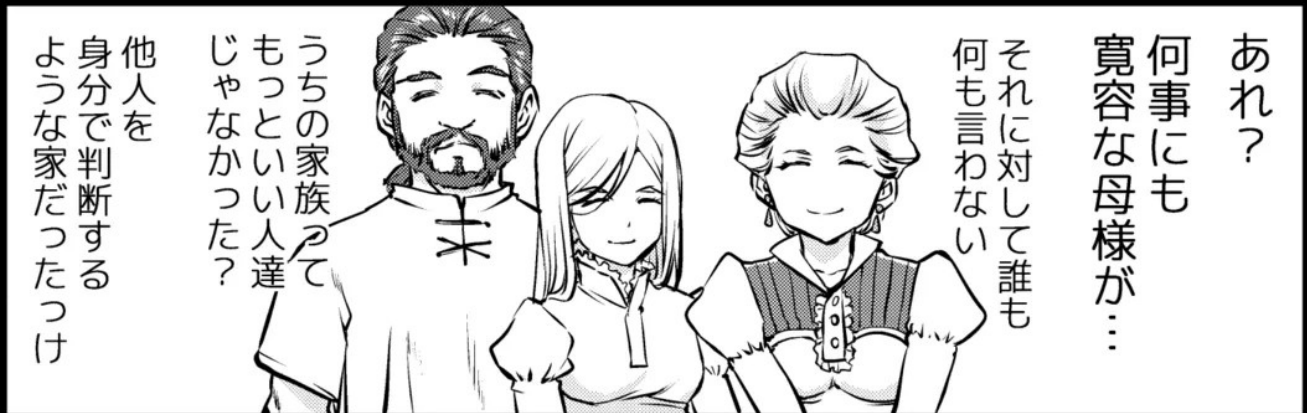


プリアアーさんは
可愛いし
いい娘だわ

でも平民で
実家は雑貨屋よね

お友達なら
いいけれど

メイヤー家の
跡取りのお相手には
母様どうかと思うわ



あれ？

何事にも
寛容な母様が…

それに対して誰も
何も言わない

うちの家族って
もつといい人達
じゃなかった？

他人を
身分で判断する
ような家だったっけ



でも言われてみれば
ノーラの立居振舞は
たまに気に掛かる
がある

声が大きくて
ハッキリ物を言うし
感情的になることも多い

スプーンの持ち方が変だし
食事もバクバク食べる
ちゃんとした礼儀作法を
学んだことないんだろう

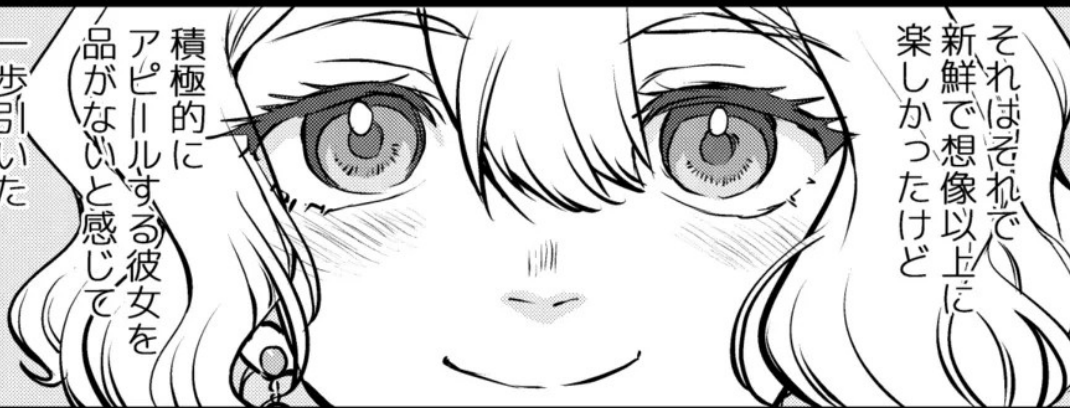
学校の成績だつて
僕は小学校から
騎士学校まで
ずっと『恩賜の杖』
組に選ばれてる

ノーラは
成績上位者では
あるけど一度も
選ばれたことがない



母様へ反発した時期も
重なつて進学してから
は一層仲良くしてだ
それはそれで
新鮮で想像以上に
楽しかったけど

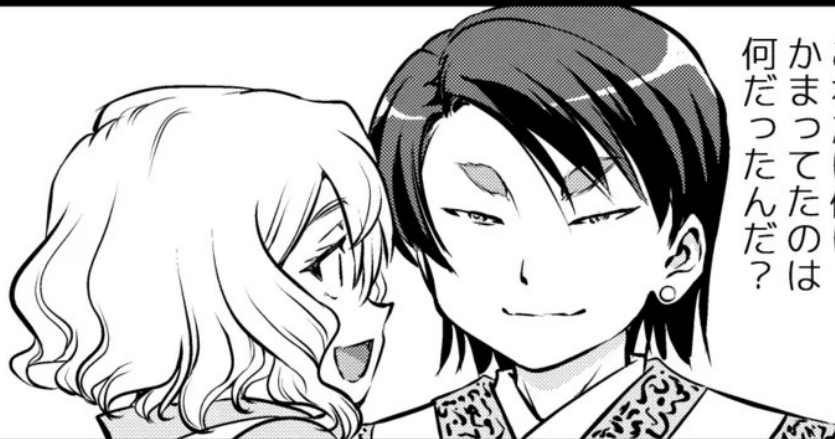
積極的に
アピールする彼女を
品がないと感じて
一歩引いた
態度をとつた



そして今回
彼女はすぐ王子に
靡いてしまった

あれだけ僕に
かまつたのは
何だったんだ？

やっぱり根っこが
血筋の良くない
尻軽だったのかも



ごめんノーラ
君のことは
嫌いじゃないけど

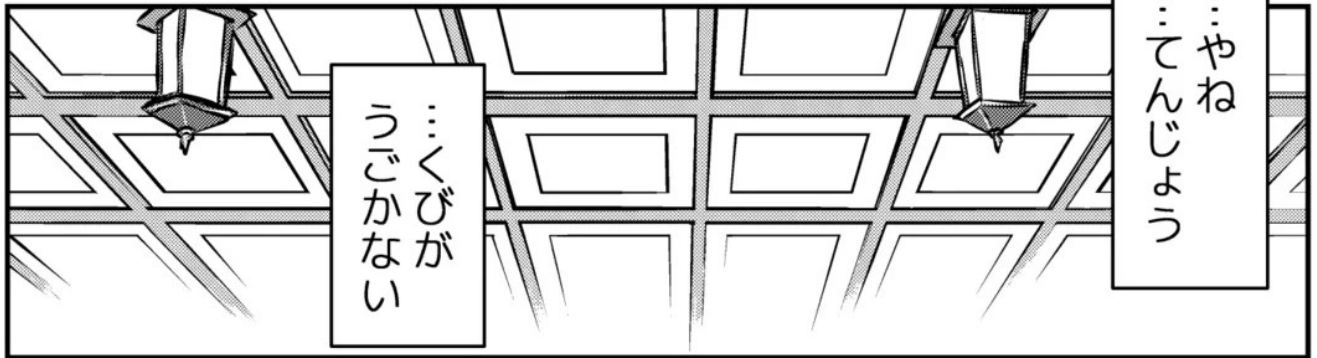
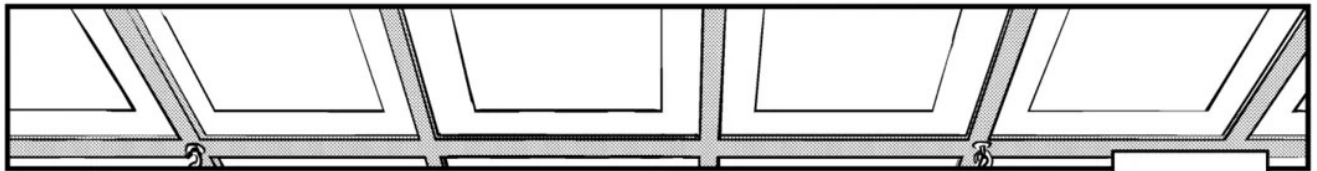
ネイサン

メイヤー家が復興したら
母様がちやんと
貴方に見合つた家柄の
相手を見つけるから

目の前の衝動に
流されては駄目よ

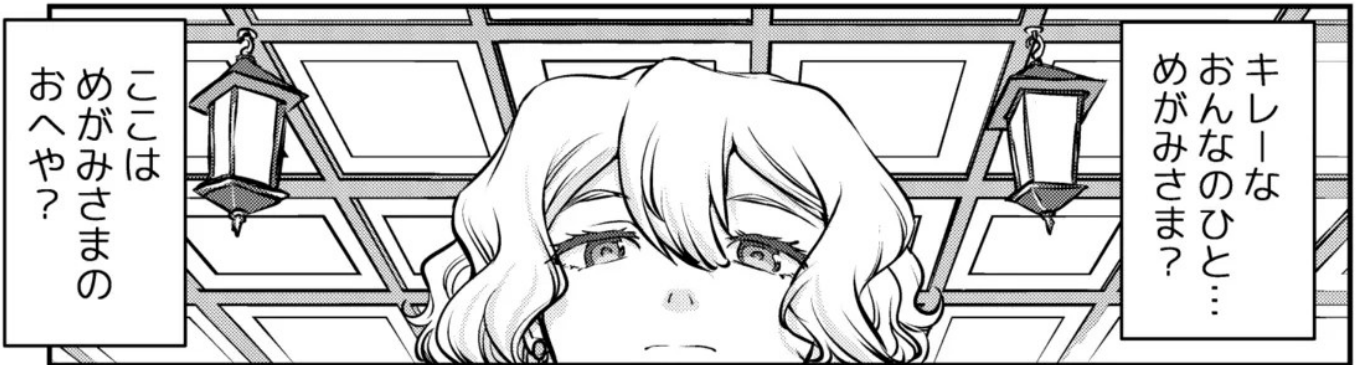
母様の言うように
僕にはもつと相応しい
相手がいるのかも





…やね
…てんじよう

…くびが
うごかない



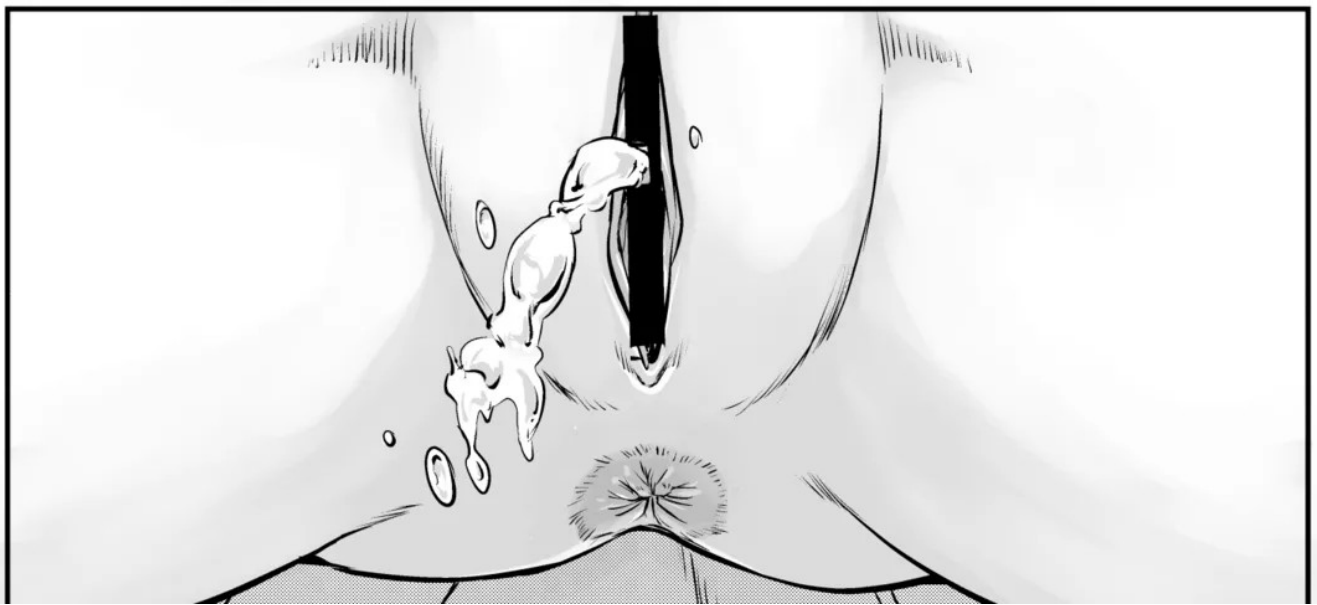
キレーな
おんなのひと…
めがみさま?

ここは
めがみさまの
おへや?



あ…

くちを
あけなきや



ああ

ゴゴ

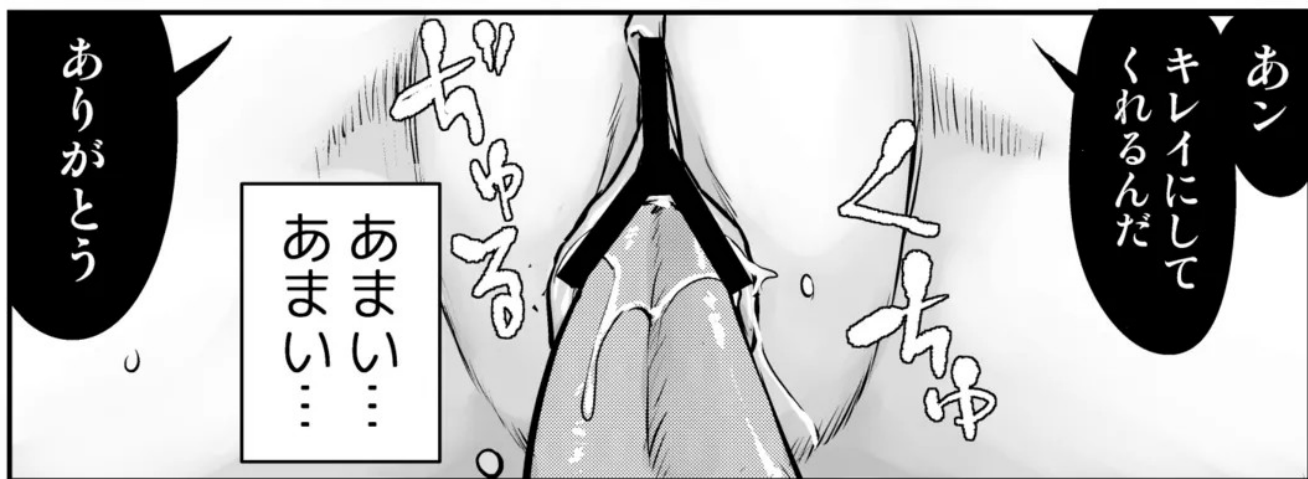
ゴゴ

おいしーい…



ゴゴ

ゴゴ



あーん

キレイにして
くれるんだ

ゴゴ

あまーい

あまーい…

ありがとう



アラ
着いてきちやう？

そっか
天井と私しか
見えないもんね

ゴゴ

ゴゴ

生憎だけど

したばっかで
しばらくは用がないわ

それで結局

イエマオは
芳翠に
何を頼んだのだ

はい
何でも人の体には
それぞれに適した
極小生物が数多い
そうです

そこで彼女の物を
ネイサンに移し
適合するよう作り変え
を頼んだそうです

その結果
彼女の体から排出される
物以外ではネイサンの
身体が拒絶反応を示し
栄養を得られません

たとえ周りに
食物があつても飢えて
死ぬこととなります

これで彼の体は
言わば彼女の器官の
延長となります

つまりこれが
彼女が言つてた
逃亡や死後の問題を
解決する方法です

ようするに
ちよそく
猪廁のように

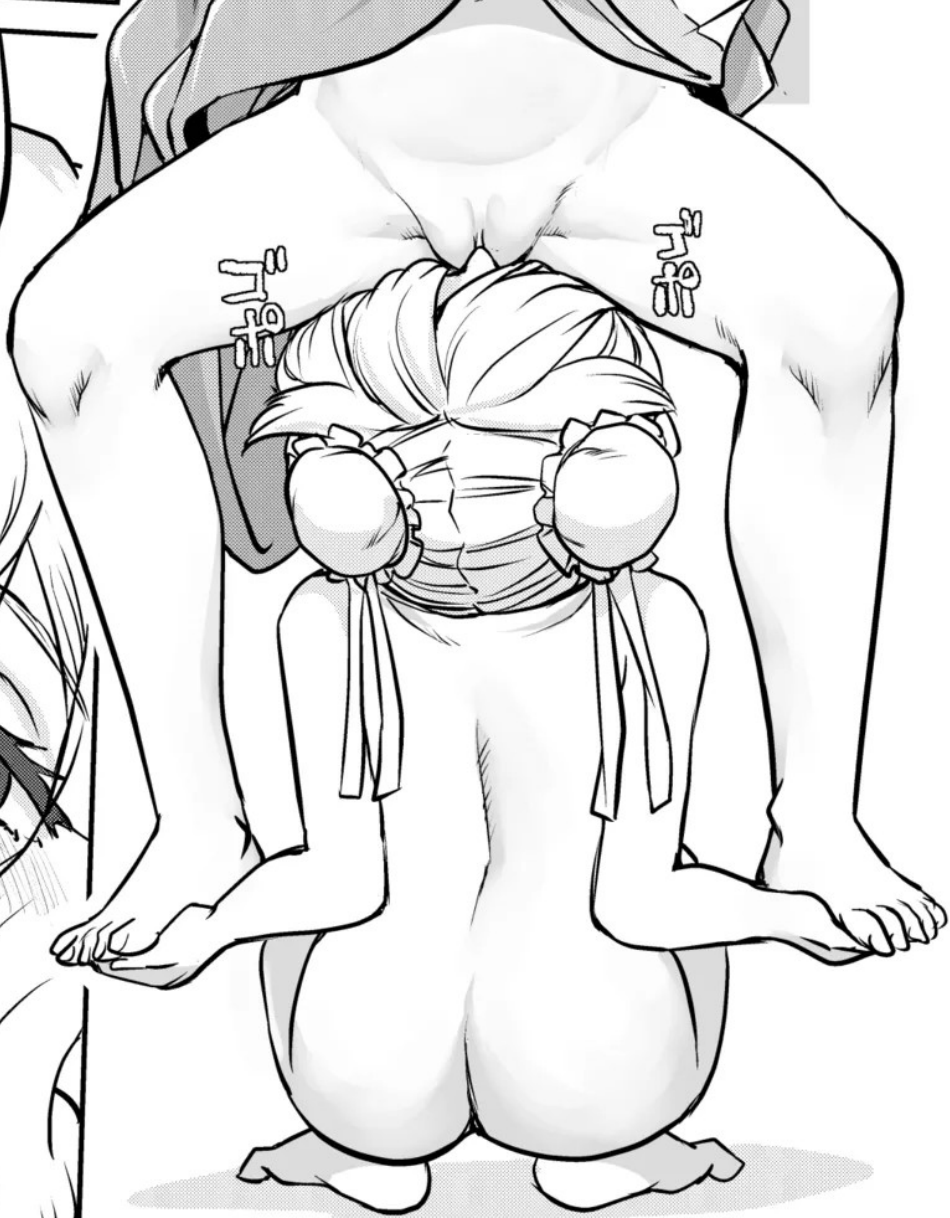
糞尿で飼う
置物にしたのか

大した発想
ではないか

どうやってそんな
ウエストランド人
らしからぬ手段を思い
付いたのだろうか

さあ
さあ…





何だ
こりや

おいネイサン！

反応
しないぞ

ハイ

芳翠先生が
身体を何度も
作り変えたので
知能が劣化した
のだろうと

ネイサン
私が誰だか
分かる？

せっかく
俺が助命して
やったのに
他に方法は
なかったのか

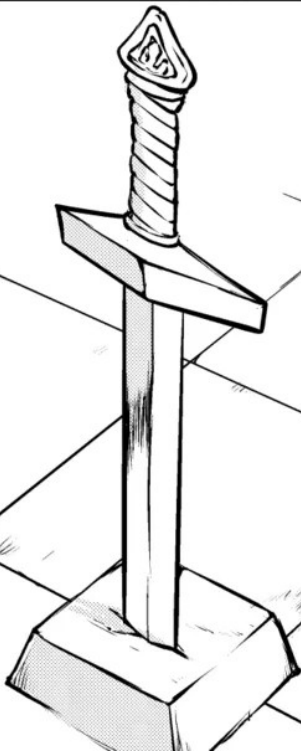
しかしかつての
仲間で想い人を
便器にするとは

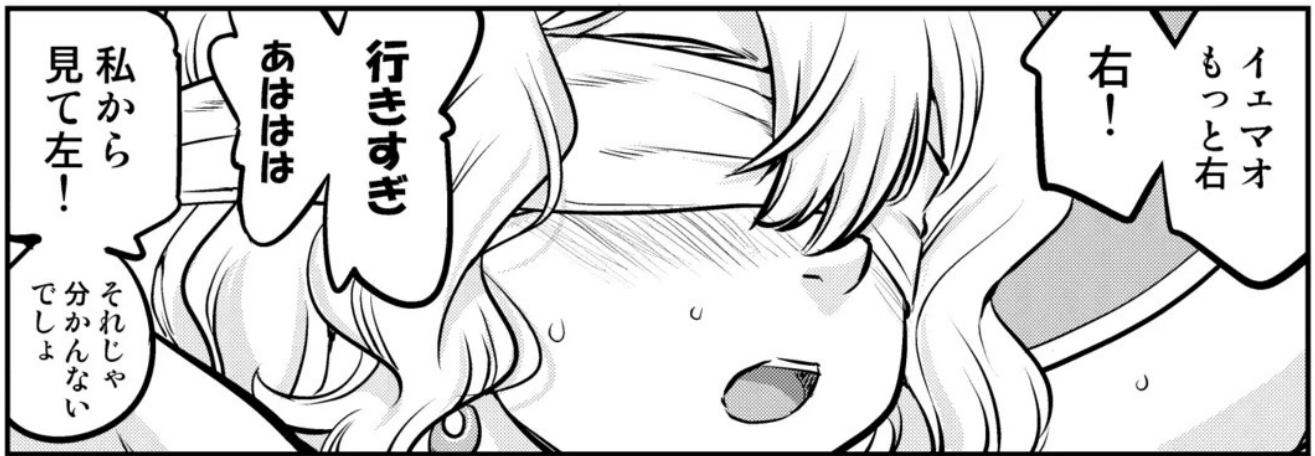
脇毛お前
頭おかしいのと
違うか

いえいえ
とんでもない
便器なんかじゃ
ありません

私の一部であり
愛しいペット？

みたいなの





イエマオ
もつと右

右!

行きすぎ

あははは

私から
見て左!

それじゃ
分かんない
でしょ



ホラ
頑張つて、

彼氏勇者が
自分のチンコを
切取られた
どらごん
スレイヤー

あなたが
代りに抜いて
英雄になれ!

半歩左

成功したら
殿下が抱いて
下さるのよ!

もう
ちよつと!

わ
わ
わ



うツ

捉えた
お見事!

私の誘導の
おかげねツ

抜ーけツ!!

抜ーけツ!!

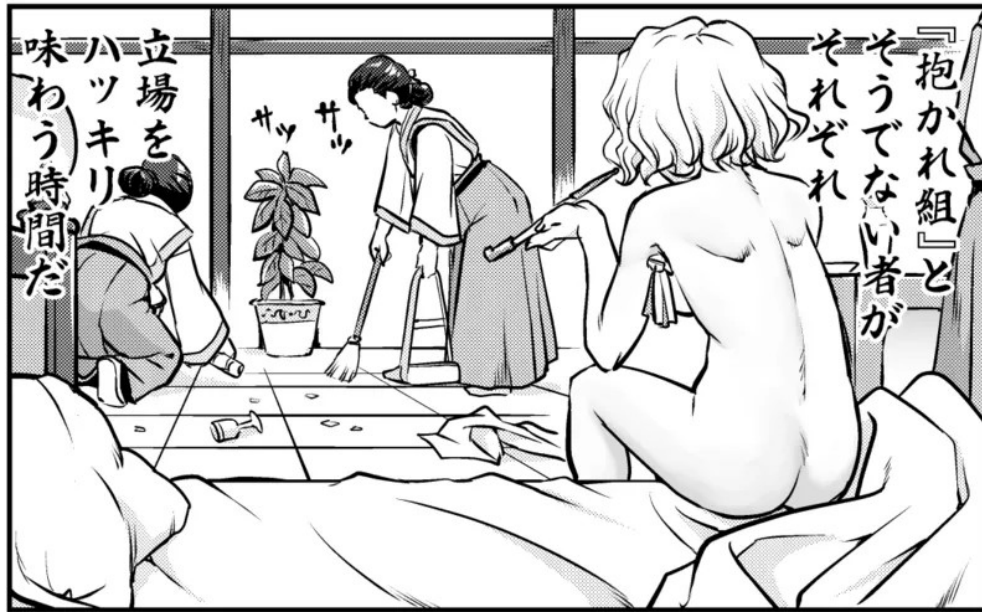
さあ
ここからよ
しっかり
啜えこんで

一度でも
落したら負け

おちゃやう

ズルル





立場を
ハツキリ
味わう時間だ

サッ
サッ

『抱かれ組』と
そうでない者が
それぞれ

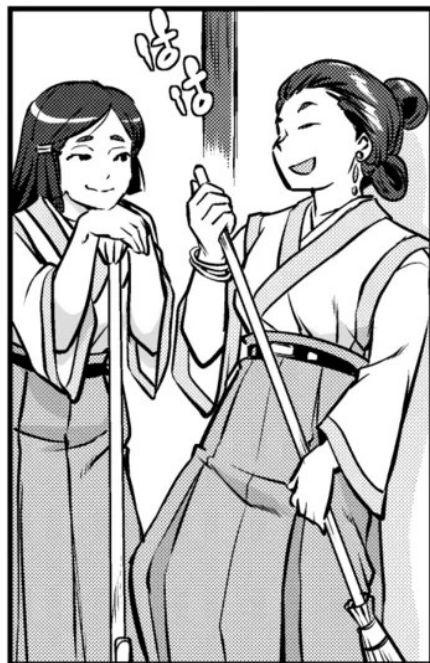


宴の喧騒が過ぎた後の
静寂は

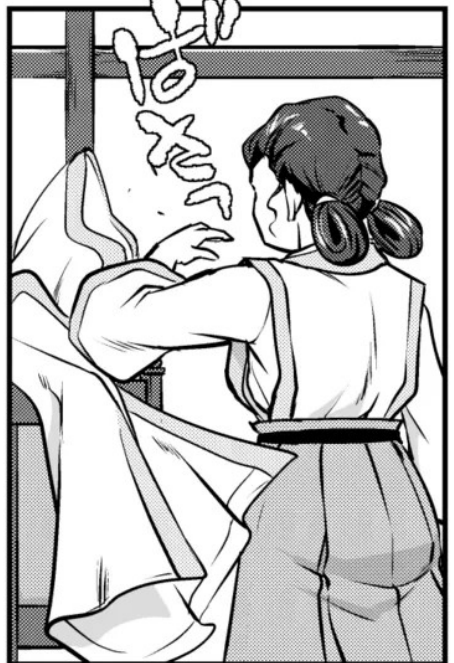
嫌いじゃない



ちい
ちい



ほほ



ほほ



イエマオ

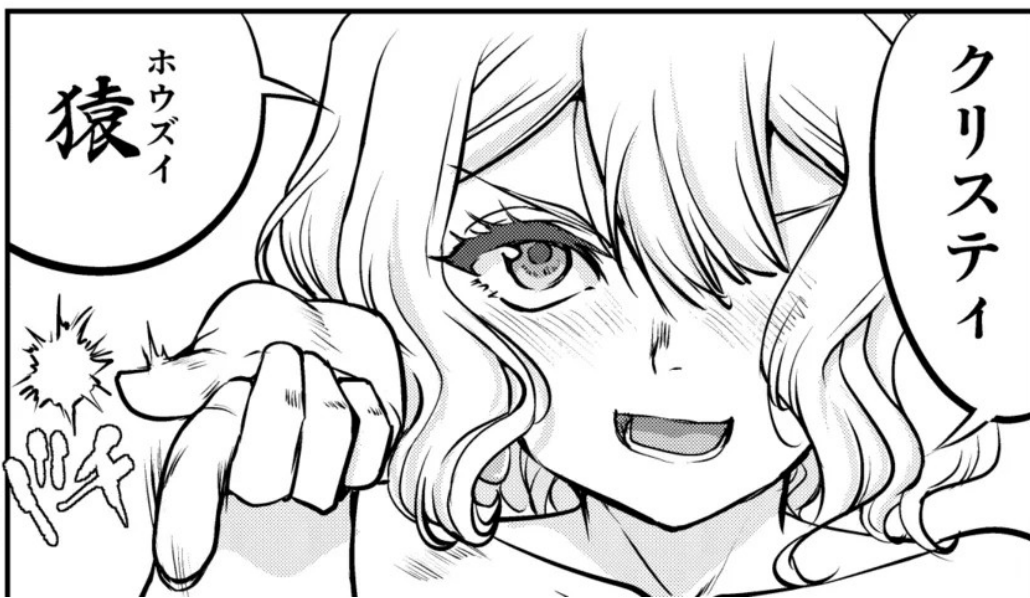
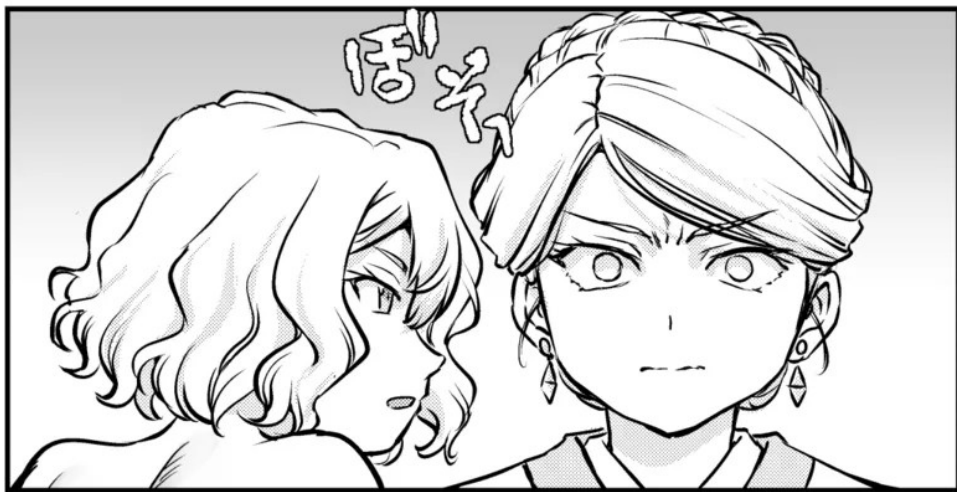
コレ
気持ち悪くて
触りたくないん
だけど

自分で
片付けて
くれる？



あらら
先輩の
方々は

外国人で新入り
の後片付けが
お気に召さない
ようね

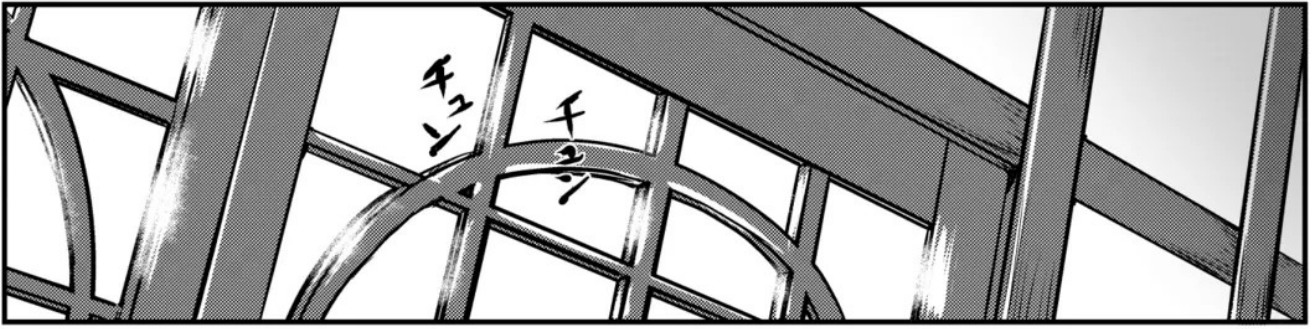




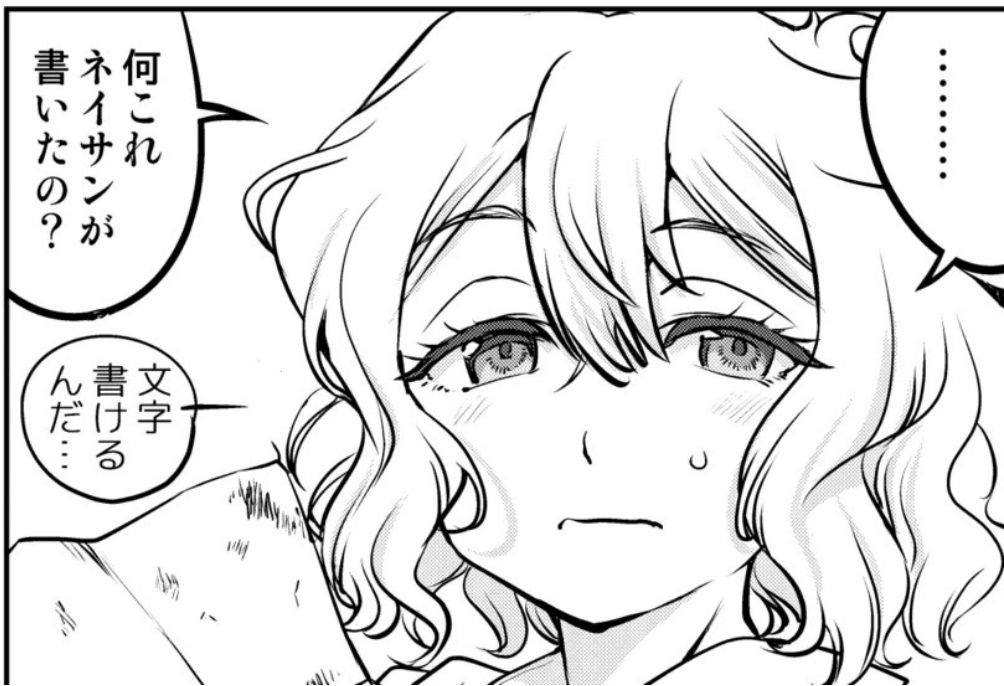
**ネイサンは
諦めて敗れた**

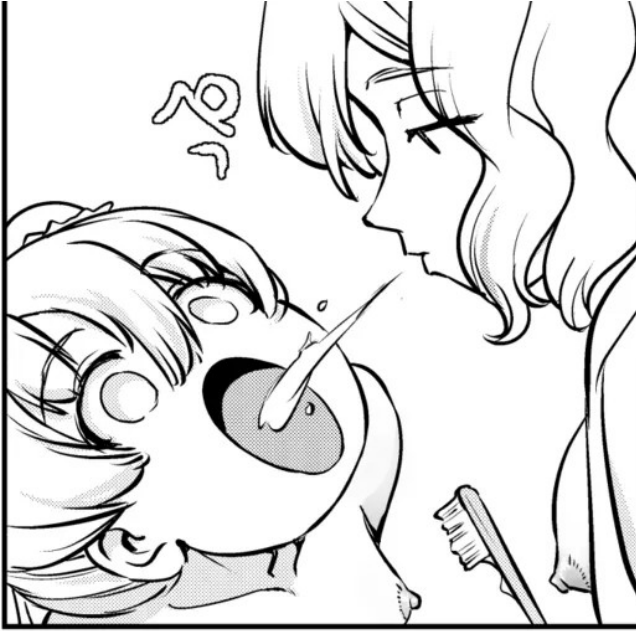
**クロードは
反抗して敗れた**





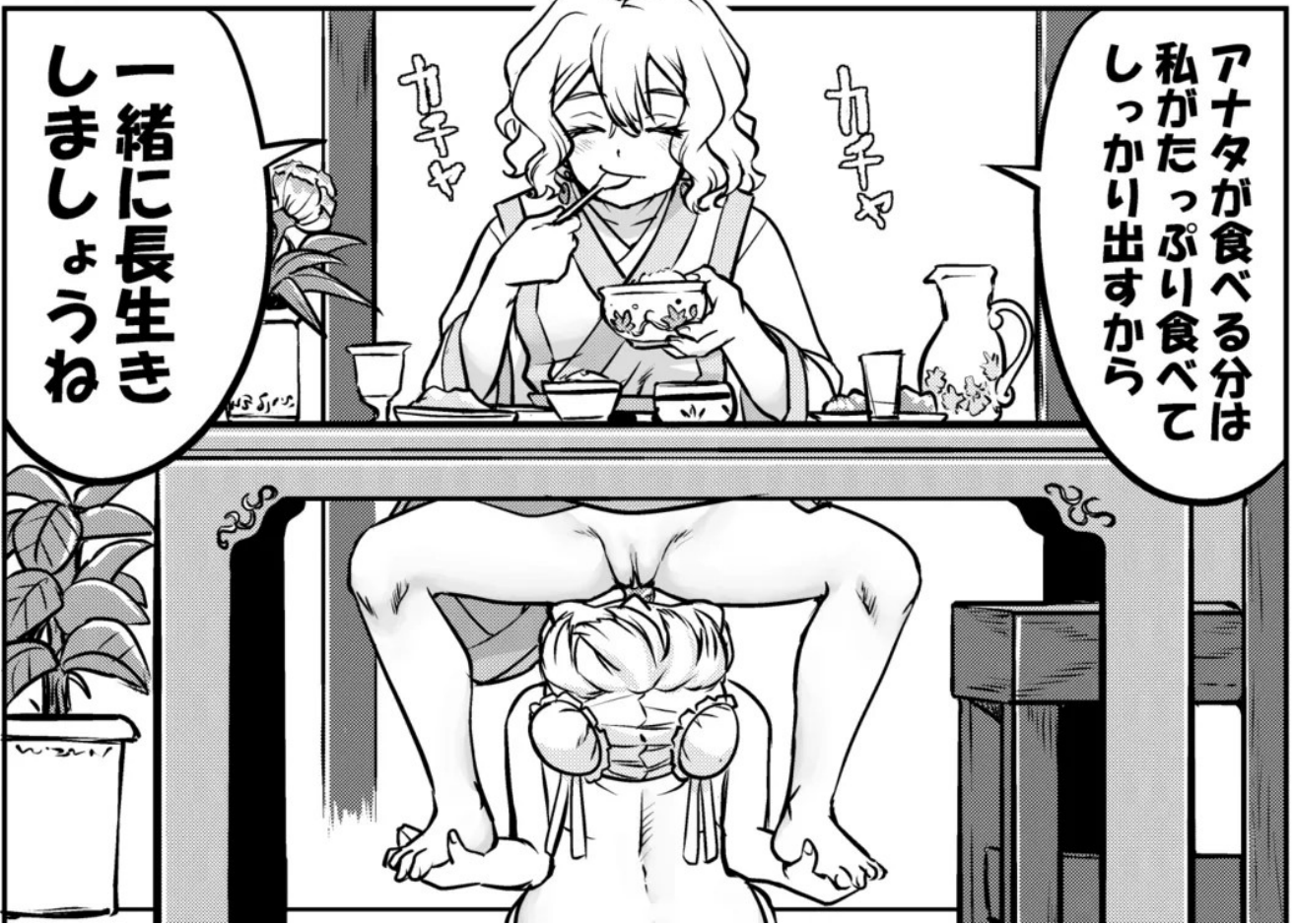
※ウエストランドの文字





ネイサン
ご実家から
送金要請の手紙が
10通も来てたわ

メイヤー家も
生活苦しかったのねー
俸給から適当に
送つといたから
お金なんて
もうアナタには
必要ないしね



アナタが食べる分は
私がつっぷり食べて
しっかり出すから

一緒に長生き
しましうね

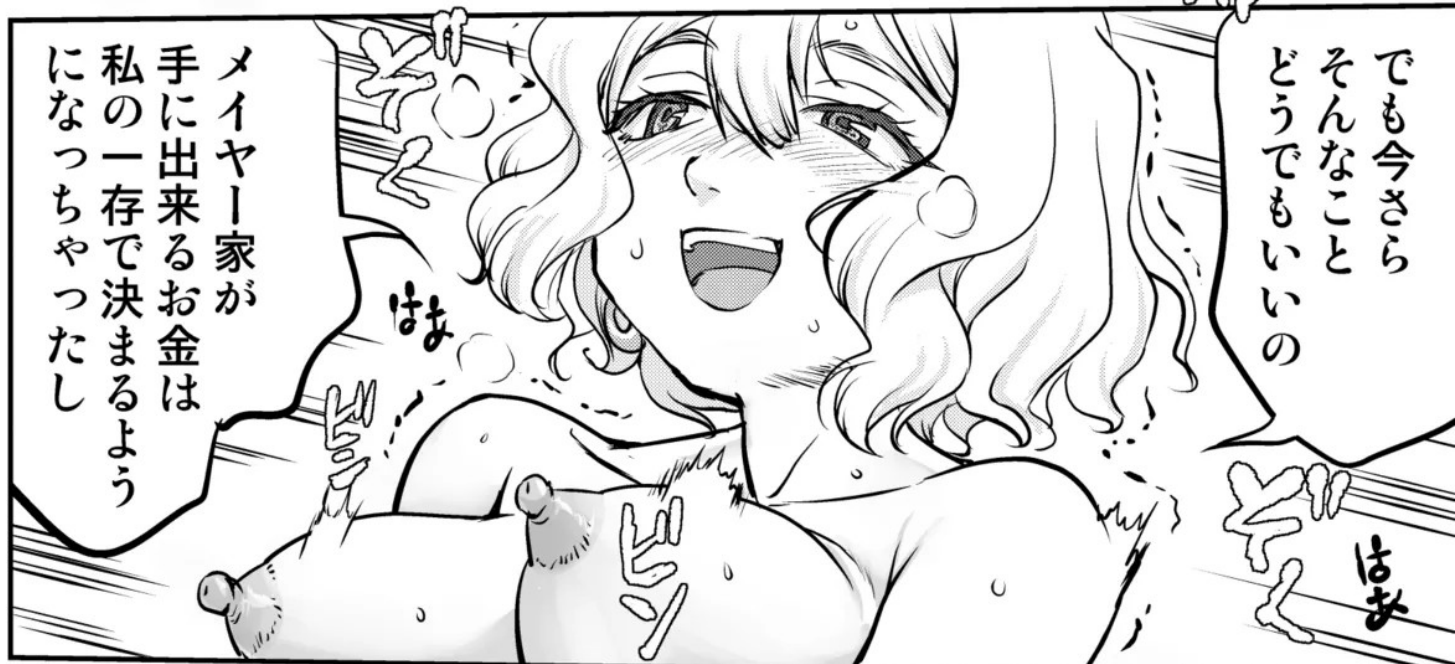


…ネイサン
私はずっとアナタと
釣り合う人間に
なりたかったの

だから貴族に
成れた時は
嬉しかったわ

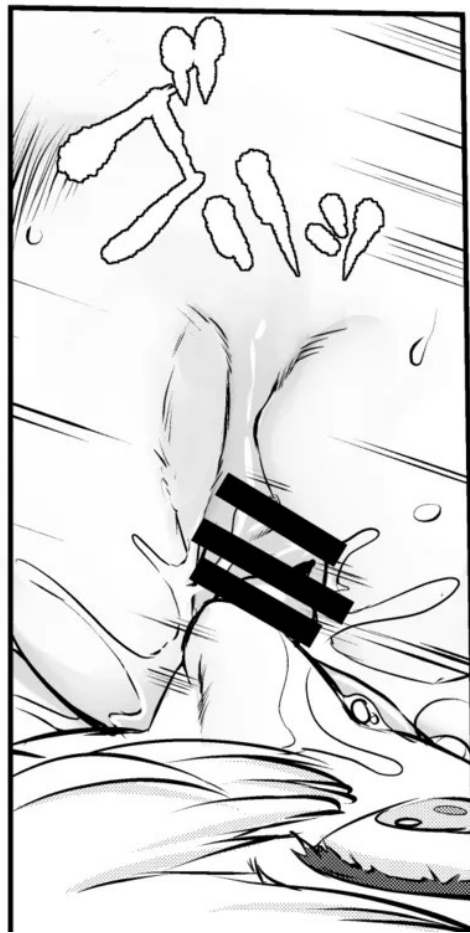
だって
アナタとご家族は
いい人達だけ

私とウチの
家族を見下してた
でしょう？



でも今さら
そんなこと
どうでもいいの

メイヤー家が
手に出来るお金は
私の一存で決まるよう
になっちゃったし



ああん

掘ったからって
いつでも出るワケ
じゃないって！



そして今
アナタは

私を
女神様だと
崇めてて



心まで完全に
私の物になっ
たんだから



ねえ
待ってよ

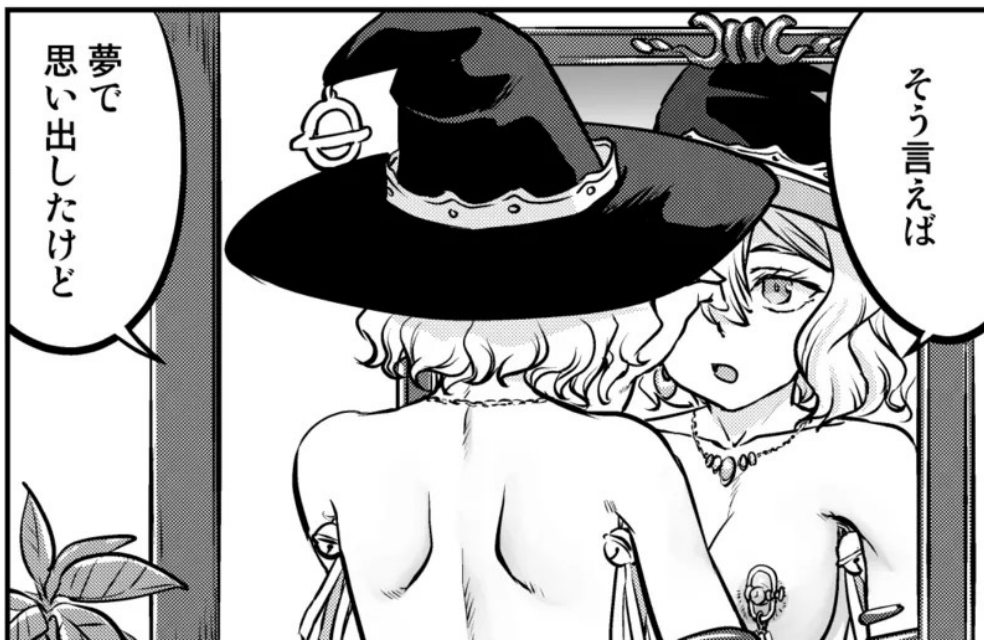
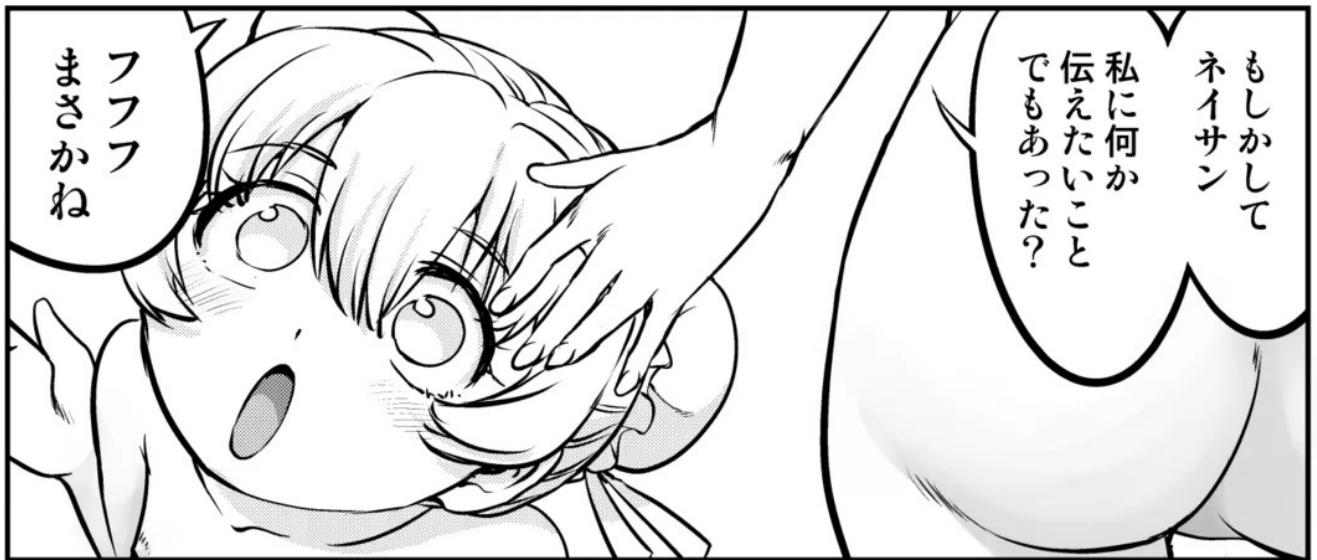
ネイサン
クロード

あれ
そう言えば
二人共大丈夫なの？

なんか
ひどい目に
会ってたような…
何だろう
思い出せないな

まあいつか
今はクエストに
集中しなきゃね

卒業したら
いよいよ私達の
人生が始まるん
だから！

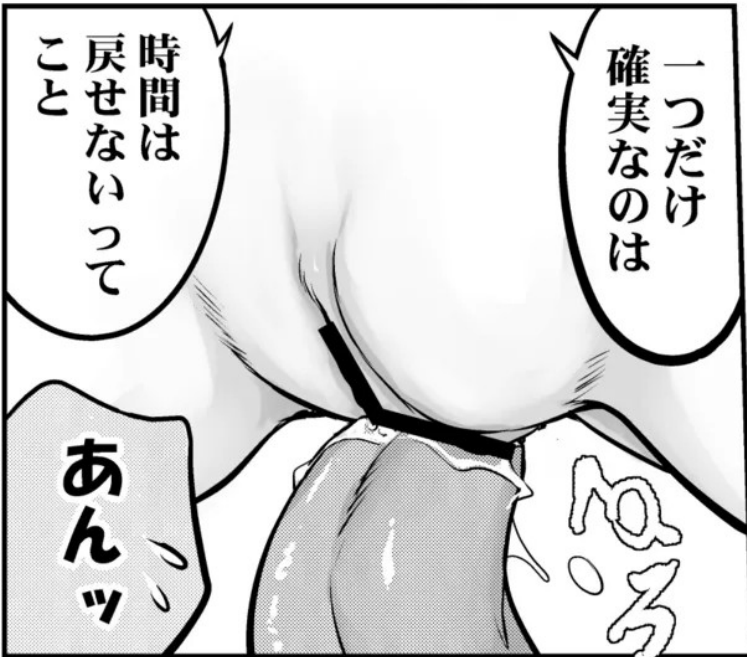




私達って
騎士学校に
戻ってないから
まだ卒検の
途中なのよね

ここに来たのは
ほんのちよっと
前なのに

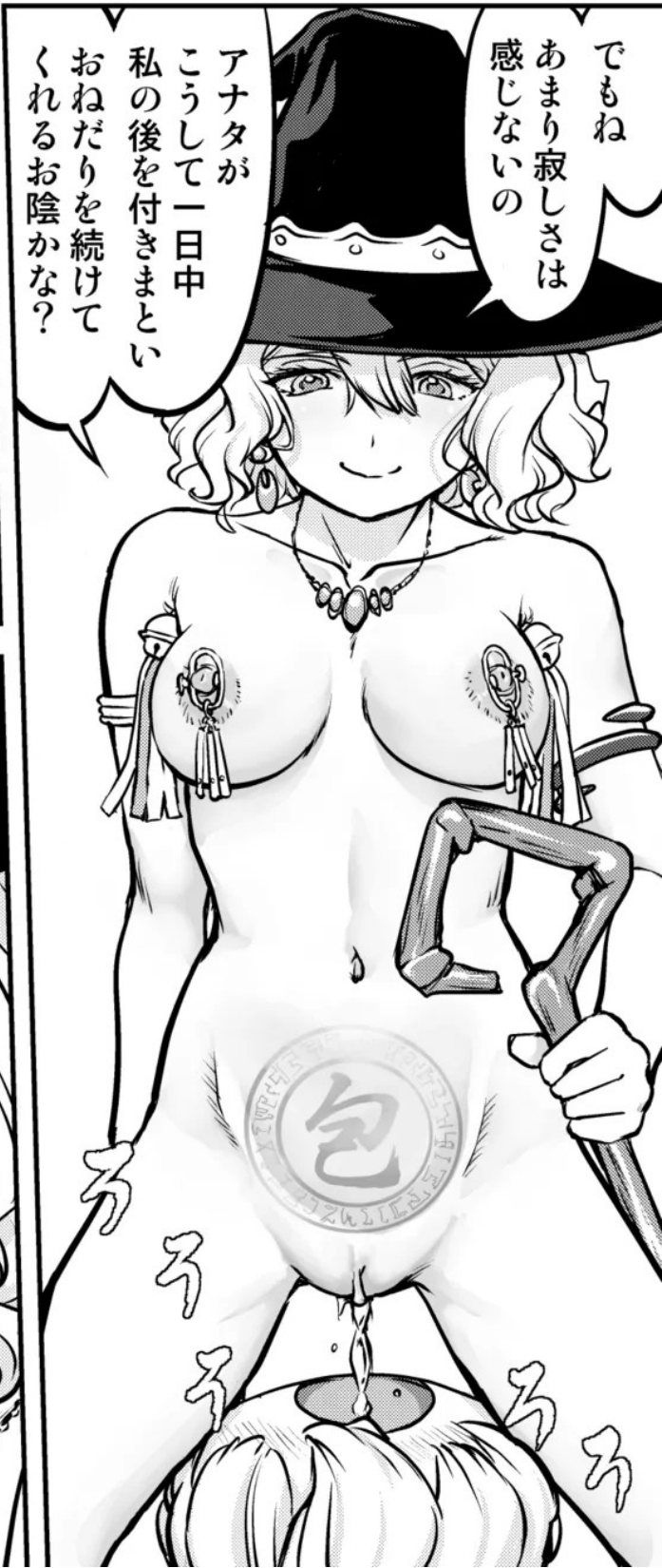
もうずいぶん
昔のような
気がする



一つだけ
確実なのは

時間は
戻せないって
こと

あんッ



でもね
あまり寂しさは
感じないの

アナタが
こうして一日中
私の後を付きまとい
おねだりを続けて
くれるお陰かな?



あの日
私達は

ただ

よしッ



だ
け
な
の
に

王
子
を
助
け
た

終

後書き

どうも蛸壺屋です。

今回は『王子を助けただけなのに』の後編で完結編です。

究極の寝取られ後編ということで、女性化（トランスセクシャル）、物化（トランスフォーム）、ついでに阿片でメンタルトランス、というトランス編でした。

モノ化されたネイサンで思い浮かぶのは当然奇書『家畜人ヤプー』だと思いますが以前セロの使い魔パロで『使い魔ヤプー』出した時にサイトをセッチンにまでには出来なかったのが、どうもやり残し感がありました。そこで今回オリジナルということで遠慮なく思うまま描いてみました。

前作『女王陛下の降伏』と今回の『王子を助けただけなのに』は以前から構想があったので無事完結できて満足です。2作ともスカありの結構ハードな展開になったので、次は少しマイルドなエロも描いてみようかとも思ったりしてます。

同人界の動きとしてはクレカが使いにくくなるという追い打ちで書店の売上も減りますます紙の同人誌の需要が縮小していつてる気がします。これも時代の流れか、一サークルとしては身を任せるよりほかありません。

ではまた、次回お会いしましょう。

誌名 異世界TS 王子を助けただけなのに トランス編（ダウンロード版）

発行者 蛸壺屋

発行日 2024年 12月26日

ご意見ご感想は下記アドレスまで

URL <http://takotuboya.jp>

E-mail tk@takotuboya.jp

Twitter @takotuboya

Pixiv 1108775

Circle.ms 10018834

異世界TS 王子を助けただけなのに トランス編



TAKOTUBOYA

異世界TS 王子を助けただけなのに

Adult Only

